

農学部教育理念

本学部は、食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識の理解をもとに、広い視野で物事を考える総合的判断力や問題解決能力を涵養しつつ、社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得させ、それらに関する問題解決を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を育成することを理念とする。

農学部の教育目標

- ・幅広い教養と食料、環境、資源及び生命に関する基礎知識に加え、農学分野における高度な知識及び技術を用いて社会のさまざまな課題を探究し解決できる能力を養成する。
- ・フィールドにおける実践教育を推進し、農学分野において、地域と国際社会に貢献できる人材を育成する。
- ・専門技術者としての倫理観、情報収集能力、文章表現能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を高める教育を行う。

1. 農学部の沿革及び組織の概要

・ 沿 革

本学部は、大正13年9月に設立された宮崎高等農林学校（昭和19年宮崎農林専門学校と改称）を母体とし、昭和24年5月国立学校設置法の公布により宮崎大学に包括され、宮崎大学農学部として発足した。

- 昭和24年6月1日 宮崎大学学則を制定、本学部には農学科第1部、同第2部・林学科・畜産学科・獣医学科・農業化学科が置かれた。
- 昭和26年4月1日 水産学科設置
- 昭和28年4月1日 総合農学科設置（農学科第2部廃止）
- 昭和31年4月1日 農学専攻科（農学専攻・林学専攻・畜産学専攻・獣医学専攻・農業化学専攻・水産学専攻）設置
- 昭和34年4月1日 農学部別科（畜産専修）設置
- 昭和38年4月1日 総合農学科を改組し農業工学科を設置
- 昭和42年6月1日 大学院農学研究科（修士課程）設置（農学専攻・林学専攻・畜産学専攻・獣医学専攻・農業化学専攻・農業工学専攻）
- 昭和42年6月1日 大学院農学研究科設置に伴い農学専攻科は水産学専攻を除き廃止
- 昭和44年4月1日 水産学科を改組し水産増殖学科を設置
- 昭和46年4月1日 草地学科設置
- 昭和48年4月1日 農学専攻科（水産学専攻）廃止
- 昭和48年4月1日 大学院農学研究科水産増殖学専攻設置
- 昭和50年4月1日 大学院農学研究科草地学専攻設置
- 昭和63年4月1日 鹿児島大学大学院連合農学研究科（後期3年博士課程）が設置され、農学部が構成大学となる。
- 平成元年4月1日 獣医学科を除く農学科、林学科、畜産学科、農業化学科、水産増殖学科、農業工学科、草地学科の7学科を改組し、農林生産学科、生物資源利用学科、動物生産学科の3学科に再編
- 平成2年4月1日 山口大学大学院連合獣医学研究科（4年博士課程）が設置され、農学部が構成大学となる。
- 平成5年4月1日 農学専攻、林学専攻、畜産学専攻、農業化学専攻、水産学専攻、農業工学専攻、草地学専攻の7専攻を改組し、農林生産学専攻、生物資源利用学専攻、動物生産学専攻の3専攻に再編
- 平成12年4月1日 獣医学科を除く農林生産学科、生物資源利用学科、動物生産学科の3学科を改組し、食料生産科学科、生物環境科学科、地域農業システム学科、応用生物科学科の4学科に再編
- 平成13年4月1日 附属農場、附属演習林、附属水産実験所の3附属施設を改組し、附属自然共生フィールド科学教育研究センターを設置
- 平成15年10月1日 宮崎大学と宮崎医科大学が統合し、宮崎大学設置
- 平成16年4月1日 国立大学法人宮崎大学設置
- 平成17年4月1日 宮崎大学大学院農学研究科修士課程の農林生産学専攻、生物資源利用学専攻、

- 動物生産学専攻の3専攻を改組し、生物生産科学専攻、地域資源管理科学専攻、森林草地環境科学専攻、水産科学専攻、応用生物科学専攻の5専攻に再編
- 平成19年4月1日 附属家畜病院を附属動物病院に名称変更
農学工学総合研究科（博士後期課程）設置
鹿児島大学大学院連合農学研究科を離脱
- 平成22年4月1日 食料生産科学科、生物環境科学科、地域農業システム学科、応用生物科学科、獣医学科の5学科を改組し、植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科、畜産草地科学科、獣医学科の6学科に再編
大学院医学獣医学総合研究科を設置
山口大学大学院連合獣医学研究科を離脱
- 平成22年10月1日 附属自然共生フィールド科学教育研究センターの組織を整備し、附属フィールド科学教育研究センターと改称した。

附属施設などの沿革と概要

(1) 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター

1) 沿革

前身の農学部附属自然共生フィールド科学教育研究センター（以下、「フィールドセンター」と略す。）は、平成13年4月にそれまでの農学部附属3施設、すなわち附属農場(牧場を含む)、附属演習林および附属水産実験所を機能的に統合して設置された。設置の理念として、自然との共生および環境との調和を掲げ、これを実践するための総合的な農学教育研究に活用可能な内外に開かれた附属施設を目指してきた。また、平成22年10月には、教育・研究機能の充実・強化を図るため、教育・研究支援部門（4部門）と4附帯施設に組織を整備し、「宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター」に改称した。

2) 教育・研究支援部門

農業部門

学科等推薦の併任教員とフィールドセンター専任の教職員（木花フィールド配属）で構成され、木花フィールド（農場）における教育・研究支援活動を担当する。

牧畜部門

学科等推薦の併任教員とフィールドセンター専任の教職員（住吉フィールド配属）で構成され、住吉フィールド（牧場）における教育・研究支援活動を担当する。

森林部門

学科等推薦の併任教員とフィールドセンター専任の教職員（田野フィールド配属）で構成され、田野フィールド（演習林）における教育・研究支援活動を担当する。

海洋部門

学科等推薦の併任教員とフィールドセンター専任の教職員（延岡フィールド配属）で構成され、延岡フィールド（水産実験所）における教育・研究支援活動を担当する。

3) 附帯施設

木花フィールド（農場）

学内にあり、水田、露地野菜圃場、温室、ビニルハウス、果樹園などを備える。

住吉フィールド（牧場）

家畜生産のみならず飼料生産から畜産物利用までの総合的な畜産関連設備・施設を備える。宮崎市東北部、JR九州日豊本線日向住吉駅の東方約1kmに位置する。

田野フィールド（演習林）

田野フィールド（演習林）は田野地区、大納地区、崎田地区の3地区からなり計約620 haの森林を所有する。田野地区は宮崎平野の西端に位置し、面積は約500 haの里山である。大納地区は日南海岸に面し面積は約60 ha、崎田地区は志布志湾に面し面積は約60 haあり全国的に貴重な天然性海

岸風衝群落が残存する。

延岡フィールド（水産実験所）

日向灘に面した延岡市に位置し、実習船の他、実験室、海水飼育設備、宿泊施設を所有する。九州東岸の太平洋側にある大学水産実験所としては唯一のものである。

(2) 農学部附属動物病院

本施設の省令化は昭和28年8月1日であるが、歴史は古く、施設の建設は、宮崎高等農林専門学校時代の昭和15年である。その後、一部建物の改造はあったものの老朽化は著しかったが、昭和60年1月の宮崎大学の統合移転で現在のキャンパスに新築され、平成19年4月に動物病院に名称変更された。動物病院棟は、鉄筋2階建て（1階988.72㎡、2階795.60㎡）で、小動物診療部門として、1階の小動物診察室、臨床検査室、薬剤検査室、小動物手術室、小動物X線室、CT検査室、小動物入院室があり、大動物部門として、1階の大動物診療兼手術室、大動物X線室、および学生実習部門として、1階の外科手術実習室、2階の臨床検査実習室がある。その他事務室、病院専任教員用の研究室と実験室がある。臨床系研究室の獣医内科学研究室、産業動物内科学研究室、獣医外科学研究室、獣医寄生虫病学区研究室および動物病院専任教員室は病院棟2階に入っている。また、獣医臨床放射線学研究室、産業動物臨床繁殖学研究室は産業動物教育研究センターに入っている。病院の別棟として、実習・実験用大動物舎（262㎡）および実習・実験用中小動物舎（53㎡）がある。本院は、大動物X線CT装置、大動物X線装置、超音波断層撮影装置、自動血球カウンター、小型貨物自動車等を備え、地域社会における産業動物（牛、豚、鶏）および伴侶動物（犬、猫等）などの診療を通じて、獣医学科学生の獣医臨床教育の場として、また獣医学科教員の研究および研究材料の取得の場として活躍している。

(3) 農学部附属農業博物館

現在の附属農業博物館は平成10年4月に省令施設となり、平成11年5月に館内のリニューアルを行い、現在にいたっている。

博物館は、本館と別館の2つの建物から構成されており、本館では、農学部の調査研究の成果をはじめ、宮崎の農林水産および畜産にかかわる標本・資料の展示を行っている。現在、本館には、「宮崎の農業コーナー」をはじめ、6つの展示コーナーがあり、本学教職員、学生をはじめ、一般にも開放している（入館料は無料）。

本館の歴史は長く、農学部の前身である宮崎高等農林学校の創立10周年記念事業として同窓会から寄贈を受け、昭和10年7月に創立された農業博物館に始まる。現在の建物（鉄筋2階建：420㎡）は、大学の統合移転に伴い、昭和61年に移転新築されたものである。

分館は、平成元年10月宮崎大学農学部同窓会によって建設（鉄筋2階建：340㎡）、寄贈されたものである。分館には研修室（2室）、会議室、実験実習室があり、学部教育をはじめ、一般を対象とした講演会・セミナー等に広く活用されている。

なお、開館時間は、月曜～金曜の午前9時から午後4時まで、休館日は土曜日、日曜日、祝日である。

2. 各種取扱事項に係る事務の窓口について

(1) 宮崎大学全体の事務の窓口

窓 口			取扱事項	
大 学 会 館	学 生 支 援 部	教育支援課(2階)	学生証に関すること 受講科目登録手続き(web 上で)	
		キャリア支援課キャリア支援係(3階) 【就職情報資料室(1 階)】	求人紹介・就職相談・就職情報の提供	
		学 生 生 活 支 援 課	学生なんでも相談室(2 階・3 階)	学生支援に関すること 物品貸出・体育施設に関すること 学生生活上のあらゆる相談
			学生支援担当 (2 階)	課外活動・諸行事に関すること 学生寄宿舎に関すること 自動車駐車許可証の発行 学内での掲示に関すること
			経済支援担当 (2 階)	奨学金・入学料免除・授業料免除・授業料分納に関すること 経済相談・アルバイトに関すること 傷害保険に関すること 通学証明書の発行
		証明書自動発行機(1階)		単位取得証明書・成績証明書・在学証明書・卒業見込み証明書・ 学割証・保険加入証明書・通学証明書・健康診断証明書、在学 証明書
	学長意見箱(1階)		宮崎大学に対する要望や意見	
	学生支援部 基礎教育支援室(教育文化学部棟 3 階)			基礎教育科目の履修・追試験・再試験に関すること
事 務 局	財務部財務課出納係(2 階)		授業料の納付(ただし、銀行引き落としが原則)	
国際連携センター			外国人留学生に関すること 海外留学に関する情報提供	
研究国際部国際連携室 国際連携係				
ハラスメント等相談員(学内にも掲示)				ハラスメントに関すること
安全衛生保健センター (事務局に隣接)				定期健康診断・臨時健康診断 健康相談・救急措置 精神衛生に関する相談(カウンセリングなど)

(2) 農学部事務の窓口

窓 口		取扱事項
農学部教務・学生支援係 (農学部北棟1階)		専門科目の履修・試験に関すること 特別欠席に関すること 教職免許などの資格に必要な科目に関すること 教育実習に関すること 時間割・教室配当・教室管理に関すること 就職活動に関すること 学内での掲示に関すること インターンシップに関すること 休学・復学・退学・除籍・再入学・転学・転学部・転課程等に関すること 海外留学に関すること 大学院生・研究生・科目等履修生に関すること 成績についての申し立てに関すること
学部長意見箱 (講義棟1階、教務・学生支援係前)		農学部に対する要望や意見

3. 学生支援組織について

農学部学生支援組織について

- 学科並びに教育及び研究に関する施設の設置・廃止に関する事項
- 授業科目の種類及び編成に関する事項
- 学生の入学、修了及び卒業の設定に関する事項
- 学生の試験に関する事項
- 学生団体、学生活動及び学生生活に関する事項
- 学生の賞罰に関する事項

教授会
(学部長)

学生委員会
(副学長)

教務委員会
(副学部長)

学部長を補佐し、本学部の教務・厚生に関する事項について適正円滑なる運営をはかるため協議立案を行い、教務・学生支援事務を援助し学生支援の任務にあたる機関。

クラス担任

学生が学生生活を営む上において直接あらゆる相談に応じ、教務委員又は教務・学生支援係と密接な連絡をとり、学生支援の任務にあたる。

4. 農学部における諸内規

(1) 宮崎大学農学部専門科目の受講及び試験に関する内規

平成16年4月1日
制 定

改正 平成19年3月20日
改正 平成20年10月21日
改正 平成22年2月23日
改正 平成24年6月1日
改正 平成25年4月1日

(趣旨)

第1条 この内規は、宮崎大学農学部における学部共通科目・専門基盤科目・専門科目（以下「専門科目」という。）の受講及び試験等に関し、必要な事項を定める。

(受講科目登録)

第2条 学生は、農学部所定の専門科目を受講するときには、受講科目を所定の手続きにより別に定める期日までに登録しなければならない。

2 科目登録の上限は年間50単位を原則とする。

ただし、集中講義科目、資格・免許取得のための科目、教職関連科目、基礎教育科目（再履修分のみ）は、上記の単位数に含まない。

(他学部の受講)

第3条 学生は、他学部の専門科目を受講するときは、所定の受講願を講義開始時までに教務・学生支援係に提出し、当該学部長の許可を得なければならない。

(受験資格)

第4条 各授業科目について所定時間数の75%以上出席していなければ受験資格が得られない。受験資格のない者は、その旨授業担当教員が通知する。

2 各授業科目の受講に当たり、遅刻・早退のあるときはそれらの3回をあわせて1回の欠席としてみなす。

3 出席時間数不足の場合は、改めて受講しなければならない。

(特別欠席の取扱)

第5条 次の理由により欠席した者は、所定の特別欠席願を教務・学生支援係に提出し、欠席する授業の担当教員に特別欠席を願い出ることができる。原則として、授業担当教員は欠席の補填措置を行い、特別欠席を欠席数に加算しないものとする。

(1) 忌 引

父母及び配偶者にあつては7日、子にあつては5日、祖父母及び兄弟姉妹にあつては3日とする。

(2) 天 災

学部長が必要と認める日・時間

(3) 学校保健安全法に定める感染症に該当するとき。

医師の証明に基づく治療に必要な期間。ただし、4週間以上の長期にわたる場合を除く。

(4) 大学で主催する文化及び体育等の課外活動で、主催大学の副学長等から正式の派遣依頼があり副

学長（教育・学生担当）が認めたとき、又は大学以外の団体等が主催するもので学長が認めたとき。

ただし、期間及び回数について制限する場合がある。

(5) その他やむを得ない事情と教務委員会が認めたとき。

ただし、事前に特別欠席願の提出が可能なものについては、事前提出がなされなかった場合は特別欠席を認めない。

（定期試験）

第6条 定期試験は、前学期と後学期の終わりの時期に、その学期に開講した授業科目について公示のうえ実施する。可否は、試験終了後2週間以内にWeb上で発表する。

（追試験）

第7条 受験資格を有し、やむを得ない事情により定期試験を受験できなかった者は、授業担当教員が認めた場合に追試験を1回限り受けることができる。

2 追試験は、定期試験期間終了後3週間以内（卒業期にある学生の後学期定期試験に限っては1週間以内）に、授業担当教員が適宜実施するものとし、受験を希望する者は、追試験届を定期試験期間終了後10日以内（卒業期にある学生の後学期定期試験に限っては3日以内）に教務・学生支援係に提出しなければならない。

（再試験）

第8条 定期試験及び追試験で不合格の者は、授業担当教員に願い出て授業担当教員が認めた場合に再試験を受けることができる。

2 再試験は、前学期は9月下旬までに、後学期は3月上旬までに公示のうえ実施する。

3 再試験の可否発表は、試験終了後1週間以内にWeb上で発表する。

4 再試験の評価は、60点を上限とし、59点以下を不合格とする。

（卒業時期）

第9条 最終学年後学期の成績提出時期に卒業に必要な単位が不足したときは、教授会が認めた場合に限り単位修得を待って最大限9月30日まで卒業時期を遅らせることができる。

（再受講）

第10条 再試験で不合格の者又は受験できなかった者は第2条の受講手続きを行い、再受講しなければならない。

（卒業論文に取り掛かるための要件及び単位の修得）

第11条 卒業論文に取り掛かるためには、原則として次の条件を満たしていなければならない。また、卒業論文の単位は4年次（植物生産環境科学科、畜産草地科学科にあつては3～4年次、海洋生物環境科学科にあつては3年次後学期～4年次、獣医科学科にあつては5～6年次）に修得するものとする。

・植物生産環境科学科

1) 専門科目のうち、2年次終了までに卒業に必要な総単位数の60%以上を修得すること。

2) 専門科目のうち、2年次終了までに必修実験・実習を全部修得すること。

・森林緑地環境科学科

1) 専門科目のうち、3年次終了までに卒業に必要な総単位数の80%以上を修得すること。

・応用生物科学科

- 1) 3年次終了までに卒業に必要な総単位数の80%以上を修得すること。
- 2) 専門科目のうち、3年次終了までに必修実験・実習を全部修得すること。

・海洋生物環境学科

- 1) 専門科目のうち、3年次前学期終了までに卒業に必要な総単位数の60%以上を修得すること。

・畜産草地科学科

- 1) 2年次終了までに修得すべき専門必修科目(38単位)の80%以上を修得すること。

・獣医学科

- 1) 専門科目のうち、4年次末までの必修講義科目総単位数の80%以上を修得すること。
- 2) 専門科目のうち、4年次末までの必修実験・実習単位を全部修得すること。

(獣医学科における参加型臨床実習の各科目の受講)

第12条 獣医学科において参加型臨床実習の各科目を受講するためには、次の条件を満たしていなければならない。

- 1) 第11条で規定する卒業論文に取り掛かるための要件及び単位の修得の条件を満たしていること。
- 2) 共用試験に合格していること。

(単位の認定及び成績評価基準)

第13条 授業担当教員の評点をもって、所定の単位を認定する。

2 標準成績評価基準は、下記の標語と評点により、秀、優、良、可を合格とし、不可は不合格とする。

秀：評点90点以上（到達目標を特に優秀な水準で達成している）

優：評点80～89点（到達目標を優秀な水準で達成している）

良：評点70～79点（到達目標を良好に達成している）

可：評点60～69点（到達目標の必要最低限は達成している）

不可：評点60点未満（到達目標の必要最低限を達成していない）

(成績に関する申し立て)

第14条 成績評価を受けた者は合否発表後1週間以内に授業担当教員に答案等の閲覧を請求することができる。また、成績評価に異議がある場合には、原則として学期末までに授業担当教員に申し立てをすることができる。

(不正行為)

第15条 不正行為をした者は、学務規則により懲戒される。

なお、併せて当該定期試験期間中に受験した試験科目の成績はすべて無効とする。

(雑則)

第16条 この内規に定めるもののほか、学生の受講及び試験に関し必要な事項は、教授会で定める。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

ただし、第13条については、平成15年度以前に入学した者には、本内規の規定にかかわらず、なお旧内規の定めるところによる。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成20年10月21日から施行する。

附 則

この内規は、平成22年 4月 1日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年 6月 1日から施行する。

附 則

この内規は、平成25年 4月 1日から施行する。

※定期試験における不正行為（カンニング等）について

定期試験において不正行為（カンニング等）を行った者は、「農学部専門科目の受講及び試験に関する内規」第14条により、『懲戒処分（有期の停学処分）』となり、併せて、『当該定期試験期間中に受験した試験科目の成績は全て無効』となります。

この規則は、学生が公平に試験を受けられるように、不正行為（カンニング等）防止を目的に定められたものであるので、学生の本分として、真面目に勉学し、この規則に抵触しないよう心がけて下さい。

(2) 宮崎大学農学部における転学部に関する内規

平成16年4月1日
制 定

改正 平成17年4月19日

改正 平成23年9月27日

(趣旨)

第1条 この内規は、宮崎大学学務規則第33条及び宮崎大学転学部規程に定めるもののほか、農学部（以下、「本学部」という。）の転学部の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(転出)

第2条 本学部の学生が他の学部へ転学を志願するときは、クラス担任の指導を経て、11月末までに転学部願書（様式1）を教務・学生支援係に提出しなければならない。

(受入人数)

第3条 転学部の受け入れ人数は、教育に支障がない範囲で10月末までに受入学科で定める。

(公募)

第4条 転学部の受け入れは、11月に志願要件を付して公募する。

(履修指導)

第5条 転学部生を受け入れた学科長及びクラス担任は、転学部生の既修得単位に配慮し、授業科目の履修方法について適切な指導を行わなければならない。

(その他)

第11条 この内規に定めるもののほか、転学部に関し必要な事項は、各学科が別途定めることができる。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成17年4月19日から施行する。

附 則

この内規は、平成23年9月27日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

(3) 宮崎大学農学部における転学科に関する内規

平成16年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、宮崎大学学務規則第33条の規定に基づき宮崎大学農学部（以下「本学部」という。）学生の転学科に関して必要な事項を定めるものとする。

(志願資格)

第2条 転学科を志願できる者は、本学部で6ヶ月以上在籍している者とする。なお、転学科を許可された者については、再度の転学科は認めない。

(推薦入学者の志願)

第3条 推薦入学者の転学科は原則として認めない。

(受入要件)

第4条 転学科は、当該学生が志願する学科の教育に支障がない範囲で認めるものとする。

(公募)

第5条 転学科の受入は、10月に志願要件を付して公募する。

(受入申請の受理期限)

第6条 転学科の受入申請の受理期限は、10月31日とする。

(審査)

第7条 前条の規定により転学科の志願があったときは、次の基準により各学科ごとに審査を行う。

- (1) 転学科を志願する理由の妥当性
- (2) 入学試験の成績
- (3) 入学後の基礎教育科目及び専門科目の単位取得状況、成績
- (4) 筆記試験及び面接

ただし、学業成績が優秀な者に対しては、筆記試験を免除することができる。

(転学科の許可)

第8条 当該学生が志願する学科において第7条に定める審査を実施の上、教授会の議を経て、学年の始めに許可するものとする。

(受入年次)

第9条 転学科を許可された学生（以下「転学科生」という。）の受入年次は、学年進行に応じて決定するものとする。

(履修指導)

第10条 転学科生を受け入れた学科長及びクラス担任は、転学科生に対し適切な授業科目の履修指導を行う。

(その他)

第11条 この内規に定めるもののほか、転学科に関し必要な事項は、本学部教授会において定める。

附 則

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

5. 各学科の教育内容と育成人材像

植物生産環境科学科

〔教育内容〕

安全・安心な農産物の安定的・持続的供給を行うための農学全般について学びます。また、自然循環機能や天敵を利用した環境保全型農業、環境調和型雑草防除、植物病害防除、植物工場、農業の機械化や労働環境の改善、農地整備や灌漑利水、農業経営・経済などに関する専門科目についても実験・実習を交えながら学びます。さらに、卒業論文として、特定の課題について指導教員のもとで必要な研究実験、演習、専門技術の修得と応用や文献調査などを行い、その成果を論文としてまとめ、評価を受けます。

〔育成人材像〕

植物生産に関わる専門知識と国際性を備えた指導力を習得し、効率的かつ環境と調和した持続的な植物生産、流通システムの開発、最適な機械技術・安全技術の開発、生産基盤及び物質循環型の農村空間の創出ができ、国際的に貢献できる人材を組織的に育成します。

森林緑地環境科学科

〔教育内容〕

森林緑地環境科学科では、森林や農山村・都市域の緑地生態系の成り立ちとその役割について広く学びます。また、自然環境や私たちの快適な生活環境を守るための森林緑地の管理方法について、森林資源の育成・利用や都市・荒地の緑化、水資源の管理、防災、環境にやさしい材料開発・利用、景観設計、生態系修復などの理論と専門技術を、豊富な実験や野外実習を通して身につけることができます。

〔育成人材像〕

森林・緑地の機能に関する広い知識を持ち、自然環境や国土の保全、水資源の安定的な利用など、安全で快適な生活環境と生物資源利用の調和を目指した森林緑地管理を計画・実行できる人材、また、樹木・菌類、非生物材料等の特性を深く理解し、環境に調和した材料の開発や緑化に活躍できる人を育成します。

応用生物科学科

〔教育内容〕

地球規模で社会が直面すると予想される生命・食料・環境に関連した諸問題を解決するために、生物機能および食品機能の科学的な理解とその活用、バイオテクノロジーによる社会貢献、農業生産環境の保全と食品の安全確保、そしてこれらに携わる技術者や研究者が備えるべき倫理について学びます。

〔育成人材像〕

今世紀、人類が直面するであろう生命・食料・環境に関連する諸問題の解決を目指し、先端的な科学技術の発展に寄与できる創造性と問題解決能力を備え、国際化・情報化など社会の変化にも柔軟に対応でき、倫理観を持つ人材を育成します。

海洋生物環境学科

〔教育内容〕

海洋は、生物資源の宝庫であると共に地球環境の維持に大きな役割を果たしています。そこで

海洋を含む水域環境の保全・管理を理解し、生物生産と資源利用を目指した科学教育を行います。具体的には、水域生物の生理・生態・遺伝・分類に関する教育、生物資源の高度利用、水族生産の阻害要因である環境変化・疾病等の諸問題の対策と予防に関する教育を行います。そのため、地域の自然と社会に立脚した自然環境の理解を深め、国際的にも通用する海洋環境の保全と利用を目指し、フィールドにおける体験や実験実習を重視した教育を行います。

〔育成人材像〕

地球環境系の中でも最も大きな規模と役割を備えている水圏の生物と環境に関する知識を修得し、柔軟で総合的視点を備え、刻々と変化する環境問題を的確に把握できると共に、広く海洋資源の保全と有効活用との調和を考えるバランスのとれた人材を育成します。

畜産草地科学科

〔教育内容〕

低コスト・低労力化のもとで、限られた自給飼料資源をリサイクルさせながら、良質で安全な畜産物の生産に寄与できうる人材を育成するため、南九州地域の温暖な気候に適している肉用家畜の生産と、飼料生産に必要な暖地型植物の生産などを主眼とした、家畜とその生産を支える草地の両面からの教育を行います。

そのために、家畜の合理的な生産や福祉、飼料となりうる資源の開発やその活用、また草地・放牧の適切な管理などに関する知識などを、フィールドで実体験しながら学びます。さらに、獣医学科やその他の学科との連携により、家畜の体の仕組み、病気の予防や公衆衛生、畜産食品製造などについて学びます。

〔育成人材像〕

自給飼料に基盤をおいた資源循環・低投入持続型畜産に関する基礎的・応用的知識を備え、食料・飼料自給率の向上や自然・社会環境との調和を実現し、国内外の「食料・農業・農村」をめぐる諸課題の解決に貢献できる人材を育成します。

獣医学科

〔教育内容〕

動物の疾病の診断の原理とその実践、公衆衛生、動物の生産性向上と疾病予防の原理とその応用、動物の体の構造、疾病の原因と病態に関する学理に対して教育を行います。また、卒業論文として、特定の課題について指導教員のもとで必要な研究実験、演習、特殊技術の修得と応用や文献調査などを行い、その成果を論文としてまとめ、評価を受けます。

〔育成人材像〕

本学科は地域性を十分に生かしつつ、広範な分野で高度な専門知識を発揮できる獣医師、あるいは複数の専門性を備えたバランス感覚に優れた獣医師で、さらに動物医学を基本とし、幅広い応用能力を身に付け、高い実践能力を備えた人材を育成することを目標としています。

6. ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

本学部では、宮崎大学学務規則に規定する修業年限以上在学し、各学科所定の単位数を修得し、以下の素養を身につけ、かつ、卒業論文審査に合格した学生に対して卒業を認定し、学士（農学・獣医学）の学位を与える。

- ・専門技術者としての倫理観
- ・分かりやすく表現できる記述力、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力
- ・各学科が目標とした専門的知識・技術と指導力を有し、地域と国際社会に貢献できる技術者としての能力

学士（農学・獣医学）としての能力

植物生産環境科学科

植物生産と生産環境に関わる専門知識を修得し、

- ・環境と調和した農業の推進に取り組める能力
- ・国際的な視点と指導力を持ち農業を通じ社会に貢献できる能力

森林緑地環境科学科

森林・緑地の機能に関する広い知識を修得し、

- ・自然環境や国土の保全、水資源の安定的な利用など、安全で快適な生活環境と生物資源利用の調和を目指した森林緑地管理を計画・実行できる能力
- ・樹木・菌類、非生物材料等の特性を深く理解し、環境と調和した材料の開発や緑化を実践できる能力
- ・国内外の諸課題に対応できる国際性や課題解決能力

応用生物科学科

- ・応用生物科学の6分野（応用生物化学、微生物機能開発学、植物機能開発学、植物生産化学、食品製造学、食品栄養生化学）に関する基礎知識及び専門知識を有し、その知識・技術を農業、食品などの産業における問題解決のために応用できる能力
- ・応用生物科学分野における国内外の技術的課題に関して情報収集、記述、プレゼンテーション及びコミュニケーションできる能力
- ・技術者として常に社会貢献を意識し、身につけた知識・技術が社会や環境に及ぼす影響を認識すると共に、技術者が社会に対して負っている責任を自覚する能力
- ・応用生物科学分野に関連する課題の解決に必要とされるデザイン力、並びに与えられた制約下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- ・継続的、自発的に学習し、応用生物科学分野に関連する社会の変化に柔軟に対応できる能力
- ・チームで仕事をするために自己のなすべき行動と他者のとるべき行動を的確に判断して実行し、適切に働きかける能力

海洋生物環境学科

水圏における生物と環境に関する幅広い専門的基礎知識を修得し、

- ・水圏環境における生産と保全のために応用できる能力
- ・水圏環境と食料生産の諸問題を分析し、これらの問題を解決できる能力
- ・水圏における生物と環境に関する専門知識および技術を活用して、地域社会や国際社会で専門的技術者として活躍できる能力

畜産草地科学科

- ・自給飼料に基盤をおいた資源循環・低投入持続型畜産に関する基礎的・応用的知識を備え、食料・飼料自給率の向上や自然・社会環境との調和を実現し、国内外の「食料・農業・農村」をめぐる諸課題の解決に貢献できる能力

獣医学科

- ・ヒトと動物の健康と福祉の向上において高度な専門性を、地域と国際社会で発揮できる能力
- ・優れた思考や判断の下、倫理観を備え、動物医学を基本として幅広く応用・実践・開拓できる能力

7. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

農学部では、その教育理念に基づき、食料、環境、資源及び生命に関する高度な専門性を修得し、総合的判断力と問題解決能力を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）、専門基礎科目と学士力発展科目を設置する。
2. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
5. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
6. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表など）を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

植物生産環境科学科

植物生産環境科学科では、その教育理念に基づき、植物生産と生産環境に関する高度な専門性を修得し、環境と調和した農業を推進するのに必要な総合的判断力と問題解決能力を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目（大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション）、課題発見科目（専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題）、専門基礎科目と学士力発展科目を設置する。
2. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
5. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
6. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
8. 以上の編成に沿って、以下の科目を設置する。

安全・安心な農産物の安定的・持続的供給を行うための農学全般（自然循環機能や天敵を利用した環境保全型農業、環境調和型雑草防除、植物工場、農業の機械化や労働環境の改善、農地整備や灌漑利水、農業経営・経済など）に関する科目

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング（双方向型授業、グループワーク、

発表など)を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。

3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

森林緑地環境科学科

森林緑地環境科学科では、森林緑地の構造と機能に関する広い知識を有し、環境の保全・修復と資源の利活用の調和をはかる能力を通じて地域や国際社会で活躍できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション)、課題発見科目(専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題)、専門基礎科目と学士力発展科目を設置する。
2. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
5. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
6. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
8. 以上の編成に沿って、以下の科目を設置する。
 - (1) 様々な緑地生態系の構造と機能に関する知識を修得するための科目
 - (2) 多機能型森林緑地の管理方法を修得するための科目
 - (3) 森林資源の育成・利用に関する知識と技術を修得するための科目
 - (4) 都市・荒地の緑化に関する知識と技術を修得するための科目
 - (5) 水資源の管理、防災に関する知識と技術を修得するための科目
 - (6) 樹木・菌類、非生物材料等の特性に関する知識と利用技術を修得するための科目
 - (7) 生態系修復に関する知識と技術を修得するための科目

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング(双方向型授業、グループワーク、発表など)を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

応用生物科学科

応用生物科学科では、動植物・微生物の生物機能のバイオテクノロジー的手法による解明と活用、食品の機能解明とその利用及び食品の安全性、さらには農業生産環境の保全等を視点に置いた教育を通して、先端的・独創的な科学技術の発展に寄与できる創造性と問題解決能力を備えた人材と国際化・情報化に対応できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション)、課題発見科目(専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題)、専門基礎科目と学士力発展科目を設置する。
2. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。

5. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
6. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
8. 以上の編成に沿って、以下の科目を設置する。
 - (1) 数学、化学と生物を主とする自然科学及び情報技術に関する基礎知識を修得するための科目
 - (2) 応用生物科学に関する専門知識とそれらを問題解決に応用できる能力を修得するための科目
 - (3) 応用生物科学分野における技術的課題に関する情報収集力、記述力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を修得するための科目
 - (4) 社会貢献を意識し、応用生物科学に関連する知識・技術が社会と環境に及ぼす影響を理解すると共に、技術者の社会的責任を理解するための科目
 - (5) 応用生物科学分野で必要とされるデザイン力を修得するための科目
 - (6) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を修得するための科目
 - (7) 応用生物科学分野に関連する社会の変化に柔軟に対応するために、継続的、自発的に学ぶ学習態度を修得するための科目
 - (8) チームで仕事をすることの重要性を理解し、適切に行動できる能力を修得するための科目

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング(双方向型授業、グループワーク、発表など)を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。－

海洋生物環境学科

海洋生物環境学科では、その教育理念に基づき、水圏環境に関わる食料生産、生物資源、環境保全及び生命に関する高度な専門性を修得し、総合的判断力と問題解決能力を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション)、課題発見科目(専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題)、専門基礎科目と学士力発展科目を設置する。
2. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
5. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
6. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
8. 以上の編成に沿って、以下の科目を設置する。
 - (1) 水域生物の生理、生態、遺伝、分類、資源利用、水族の疾病、水域環境の保全に関する科目
 - (2) フィールド体験や実験実習を通して、海洋をはじめとした生物の生息水域における生物資源の生産、利用、管理および環境の保全に関する科目

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング(双方向型授業、グループワーク、発表など)を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。

4. 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

畜産草地科学科

畜産草地科学科では、その教育理念に基づき、草地・飼料、家畜、資源・環境および食料・畜産業・農村に関する高度な専門性を修得し、総合的判断力と問題解決能力を通じて地域と国際社会に貢献できる人材を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション)、課題発見科目(専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題)、専門基礎科目と学士力発展科目を設置する。
2. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
5. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
6. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
7. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
8. 以上の編成に沿って、以下の科目を設置する。
 - (1) 家畜の合理的な生産や福祉に関する知識を修得するための科目
 - (2) 飼料となりうる資源の開発やその活用に関する知識を修得するための科目
 - (3) 草地・放牧の適切な管理などに関する知識を修得するための科目
 - (4) 家畜の体の仕組み、病気の予防や公衆衛生、畜産食品製造などに関する知識を修得するための科目

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング(双方向型授業、グループワーク、発表など)を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

獣医学科

獣医学科では、ヒトと動物の健康ならびに福祉の向上に必要な高度な専門知識を修得し、それらを発揮できる能力や倫理観を養うとともに、総合的判断力と問題解決能力を通じて地域と国際社会に貢献できる獣医師を養成するため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

【教育課程編成の方針】

1. 幅広く深い教養と基本的な学習能力の獲得のため、全ての学生が履修する基礎教育カリキュラムとして、導入科目(大学教育入門セミナー、情報・数量スキル、外国語コミュニケーション)、課題発見科目(専門教育入門セミナー、環境と生命、現代社会の課題)、専門基礎科目と学士力発展科目を設置する。
2. 農学を学ぶ上で基礎となる知識修得のため、学部共通科目を設置する。
3. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、専門基盤科目、専門科目を段階的に設置する。
4. 学士課程を通して英語能力を涵養するため、専門英語科目を設置する。
5. 地域と国際社会に貢献できる人材を育成するために、フィールドにおける実践教育科目を設置する。
6. 専門技術者としての倫理観を涵養できる科目を設置する。
7. 実践的な能力を深化させるために、共用試験に合格することをもって受講できる参加型臨床科目を設置する。
8. 進路を見据えて、より高度な専門的な知識を取得するために、アドバンス科目を設置する。

9. 獲得した知識や技能を統合し、課題を分析、解決する能力を育成するために、卒業論文等の科目を設置する。
10. 獣医師国家試験の受験資格を修得できるように、6年間を通じ以下の内容を含む授業科目を体系的に配置する。
 - (1) 動物の体のしくみや機能に関する知識や技能を修得するための科目
 - (2) 動物の病気のなりたちや感染症に関する知識や技能を修得するための科目
 - (3) 公衆衛生ならびに動物の衛生管理や福祉に関する知識と技能を修得するための科目
 - (4) 動物の繁殖や栄養学に関する知識と技能を修得するための科目
 - (5) 病気の診断・治療・予防法に関する知識と技能を修得するための科目

【実施の方針】

1. 各授業科目について、シラバスで到達目標、授業計画、成績評価基準・方法を明確にし、周知する。
2. 主体的に考える力を育成するために、アクティブラーニング(双方向型授業、グループワーク、発表など)を積極的に取り入れるなど授業形態、指導方法を工夫する。
3. 成績評価基準・方法に基づき厳格な評価を行う。
4. 学位授与方針に基づく学生の学習過程を重視し、在学中の学習成果の全体を評価する。

8. 教 育 課 程

専門科目の履修方法等

- 1 1・2年次は、全学部共通の基礎教育科目を履修すると並行して農学部において専門科目を履修する。
- 2 1年次において、学部共通科目を履修する。学部共通科目は次の目標を持つ。すなわち、農学部の教育理念の中で謳っている、「社会の要請に応えるための農学に関する高度な専門性と技術を修得する」上で、基礎となる知識を身につけること。特に、高校で履修したことの理解を深め、その理解に基づいて専門科目を着実に履修できるようになること。この学部共通科目は、基礎植物学、基礎動物学、基礎化学、基礎数学、基礎遺伝学、基礎物理学、基礎生態学、基礎微生物学および基礎環境資源経済学の9科目からなり、それぞれ、学科の必須・選択および履修指導に応じて履修する。また植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境科学科および畜産草地科学科は1年次あるいは2年次に、それぞれの学科の取り扱う専門分野の基礎知識を修得するために、専門基盤科目と専門科目の一部を履修する。獣医学科は1年次から専門科目を履修する。
- 3 卒業に必要な単位として、基礎教育科目36単位（導入科目16単位・課題発見科目6単位・学士力発展科目14単位）のほか専門科目として植物生産環境科学科、森林緑地環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境科学科及び畜産草地科学科は92単位以上、獣医学科学生は157単位以上を修得しなければならない。

なお、卒業に必要な専門科目履修単位の内訳は、別表のとおりである。

- 4 単位の修得基準は、次のとおりとする。
 - (1) 講義については、毎週1時間15週の学習をもって1単位とする。
 - (2) 演習、セミナーについては、毎週2時間15週の学習をもって1単位とする。
 - (3) 実験、実習、研修、製図については、毎週3時間15週の学習をもって1単位とする。
- 5 教育職員免許法に基づく高等学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、教科に関する科目及び教職に関する専門科目についての所定の単位を修得しなければならない。
- 6 担当教員及び授業科目の内容については、年度により一部変更することがあるので注意すること。

なお、『授業科目担当教員』欄の『関係教員』については、『授業科目担当教員（関係教員）一覧表』を参照すること。

成績送付について

農学部では、学生の単位修得などの勉学状況を保護者にも知っていただくために、成績通知書の送付を行います。

別表 卒業に必要な専門科目履修単位一覧表

区分		植物生産環境科学科	森林緑地環境科学科	応用生物科学科	海洋生物環境学科	畜産草地科学科	獣医学科
学部共通科目	必修科目	6単位	4単位	6単位	6単位	8単位	4単位
	選択科目	6単位	** 8単位	4単位	****	6単位	2単位
専門基盤科目	必修科目	6単位	20単位	25単位	8単位	12単位	-
	選択科目	* 6単位	** 6単位		****	4単位	6単位
専門科目	必修科目	10単位	30単位	33単位	34単位	33単位	141単位
	選択科目	58単位	24単位	24単位	****	29単位	4単位 (アドバンス科目) *****
必修単位合計		22単位	54単位	64単位	48単位	53単位	145単位
選択単位合計		70単位	38単位	28単位	44単位	39単位	12単位
総合計		92単位	92単位	92単位	92単位	92単位	157単位

* 植物生産環境科学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

** 森林緑地環境科学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

*** 応用生物科学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

**** 海洋生物環境学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

***** 畜産草地科学科のカリキュラム表の末尾にある備考欄を参照すること。

***** 獣医学科のカリキュラム表にある備考欄を参照すること。

植物生産環境科学科

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
学 部 共 通 科 目	基礎植物学	共	2		2								関係教員	※学部共通 科目の選択 科目から3 科目(6単 位)取得す ること。
	基礎動物学	共		2	2								関係教員	
	基礎化学	共		2	2								関係教員	
	基礎数学	共		2	2								関係教員	
	基礎遺伝学	共	2		2								関係教員	
	基礎物理学	共		2		2							関係教員	
	基礎生態学	共		2		2							関係教員	
	基礎微生物学	共		2		2							関係教員	
	基礎環境資源経済学	共	2			2							関係教員	
専 門 基 盤 科 目	植物生産環境科学概論	植	2		2								関係教員	※専門基盤 科目の選択 科目から3 科目(6単 位)以上取 得すること。
	植物生産環境科学基礎実 験・実習Ⅰ	植	1		1								関係教員	
	栽培学	植	2			2							湯浅教授	
	植物生産環境科学基礎実 験・実習Ⅱ	植	1			1							関係教員	
	農業機械化論	植		2		2							木下准教授	
	生物情報処理学	植		2		2							槐島准教授	
	植物生理学	植		2			2						稲葉(丈)准教授	
	農地環境工学	植		2			2						豊満准教授	
	野菜園芸学	植		2				2					位田教授	
専 門 科 目	農業システム学	植		2				2					霧村助教	
	必修科目	植	2						2				関係教員	※選択科目 Ⅰ群から3 科目(3単 位)以上取 得すること。
	専門英語Ⅱ	植	2							2			関係教員	
	卒業論文	植	6						6				関係教員	
	植物生産科学実験Ⅰ	植		1			1						関係教員	
	農場実習Ⅰ	植		1			1						関係教員	
	植物生産科学実験Ⅱ	植		1				1					関係教員	
	農場実習Ⅱ	植		1				1					関係教員	
	農業環境工学実験Ⅰ	植		1				1					豊満准教授 木下准教授	
専 門 科 目 Ⅰ 群	農業環境工学実験Ⅱ	植		1					1				槐島准教授 日吉助教	
	農業・社会調査実習	植		1					1				山本(直)教授 宇田津教授 狩野准教授	

*「開講」の欄は、主に担当する教員が所属する学科を示す。「植」は植物生産環境科学科。「森」は森林緑地環境科学科。「応」は応用生物科学科。「海」は海洋生物環境科学科。「畜」は畜産草地科学科。「獣」は獣医科学科。(「共」は学部共通科目を示す。)

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	選 択 科 目 Ⅱ 群	農業動力機械学	植	2			2						槐島准教授	※選択科目Ⅱ群から6科目(12単位)以上取得すること。
		昆虫生態学	植	2			2						大野准教授	
		果樹園芸学総論	植	2			2						鉄村教授	
		作物学総論	植	2			2						湯浅教授	
		植物病理学総論	植	2			2						津野准教授	
		雑草防除学	植	2				2					松尾講師	
		生物生産機械学	植	2					2				御手洗教授	
		生産流通施設学	植	2						2			木下准教授	
	選 択 科 目 Ⅲ 群	応用数学Ⅰ	植	2			2						木下准教授	
		農業経済学	植	2			2						狩野准教授	
		栽培植物起源論	植	2			2						宇田津教授	
		人間工学	植	2			2						御手洗教授	
		企画実習	植	1			1						内田(好)准教授	
		学外体験実習	植	2			2						関係教員	集中
		短期学外体験実習	植	1			1						関係教員	集中
		総合的害虫管理学	植	2				2					大野准教授	
		園芸利用学	植	2				2					園師准教授	
		植物病理学各論	植	2				2					津野准教授	
		果樹園芸生理学	植	2				2					本勝准教授	
		社会統計学	植	2				2					山本(直)教授 宇田津教授 狩野准教授	
		農業水力機械学	植	2				2					御手洗教授	
		生物応用力学Ⅰ	植	2				2					槐島准教授	
		作物学各論	植	2				2					松尾講師	
		観賞園芸学	植	2				2					稲葉(靖)助教	
		応用数学Ⅱ	植	2					2				非常勤講師	集中(隔年)
		施設園芸学	植	2					2				位田教授	
		果樹園芸学各論	植	2					2				鉄村教授 本勝准教授	
		植物バイオテクノロジー	畜	2					2				明石教授	
		水文・気象学	森	2					2				高木准教授 竹下准教授	

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
	農業経営学	植		2					2				山本(直)教授	
	生物応用力学Ⅱ	植		2					2				槐島准教授	
	コンピュータ図学及び製図	植		2					2				日吉助教	
	土の物理学	植		2					2				豊満准教授	
	グローバルアグリ体験講座	植		2					2				関係教員	集中
	バイオロジカル・コントロール	植		2					2				大野准教授	
	GAP指導員講座	植		1					1				非常勤講師	集中
	フィールド実践実習(農場)	植		2					2				関係教員	
	生物生産システム工学	植		2					2				非常勤講師	集中(隔年)
	国際農業論	植		2						2			非常勤講師	集中(隔年)
	青果代謝生理学	植		2					2				圖師准教授	
	作物生産技術学	植		2					2				内田(好)准教授	
	農業政策論	植		2					2				狩野准教授	
	生物計測工学	植		2					2				日吉助教	
	農地環境保全学	植		2					2				豊満准教授	
	農業技術者倫理	植		1					1				非常勤講師	
	樹木生態生理学	森		2					2				伊藤教授	
	土壌肥科学	応		2					2				佐伯教授	
	植物遺伝・育種学	応		2					2				國武教授	
	農産物流通論	植		2						2			非常勤講師	集中(隔年)

* 学部共通科目の選択科目は合計6単位を履修しなければならない。

** 専門基盤科目の選択科目は合計6単位以上を履修しなければならない。ただし、6単位を超える分の単位については本学科の専門科目〔選択科目(選択科目Ⅲ群)〕の単位に含めることができる。

*** 専門科目(選択科目)は、本学科の選択科目Ⅰ群から3科目3単位以上、選択科目Ⅱ群から6科目12単位以上を履修し、選択科目Ⅲ群の履修単位と合計して58単位以上を履修しなければならない。

森林緑地環境科学科

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
学部 共通科目	必修科目	基礎植物学	共	2		2							関係教員	
		基礎環境資源経済学	共	2		2							関係教員	
	生物学群	基礎動物学	共	2	2								関係教員	生物学群から2科目(4単位)取得すること。
		基礎遺伝学	共	2	2								関係教員	
		基礎生態学	共	2	2								関係教員	
		基礎微生物学	共	2	2								関係教員	
	数物化学群	基礎化学	共	2	2								関係教員	数物化学群から2科目(4単位)取得すること。
		基礎数学	共	2	2								関係教員	
		基礎物理学	共	2	2								関係教員	
専門 基盤 科目	必修科目	森林緑地環境科学概論	森	2	2								関係教員	
		森林緑地フィールド実習 I	森	1	1								関係教員	集中
		環境計測学	森	2	2								高木准教授	
		樹木学	森	2	2								高木准教授	
		森林生態学	森	2	2								伊藤教授	
		水文・気象学	森	2	2								高木准教授 竹下准教授	
		森林計測学	森	2	2								光田准教授	
		測量学 I	森	2	2								関係教員	
		測量学実習 I	森	1	1								関係教員	
		森林緑地フィールド実習 II	森	1	1								関係教員	一部集中
		構造力学	森	2	2								細川教授 中園准教授	
		構造力学演習	森	1	1								細川教授 中園准教授	
	選択科目 I 群	環境リモートセンシング概論	森	2	2								多炭教授	
		遺伝生態学	森	2	2								西脇教授	
		測量学 II	森	2	2			2					関係教員	
	選択科目 II 群	樹木学実習	森	1	1								高木准教授	一部集中
		測量学実習 II	森	1	1			1					非常勤講師 関係教員	
		森林計測学実習	森	1	1			1					甲斐教授 光田准教授	一部集中

*「開講」の欄は、主に担当する教員が所属する学科を示す。「植」は植物生産環境科学科。「森」は森林緑地環境科学科。「応」は応用生物科学科。「海」は海洋生物環境学科。「畜」は畜産草地科学科。「獣」は獣医学科。(「共」は学部共通科目を示す。)

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	必修科目	木本植物組織学	森	2			2						雉子谷准教授	
		森林経済学	森	2				2					藤掛教授	
		木材化学	森	2				2					目黒教授	
		砂防学	森	2				2					清水准教授	
		木材理学	森	2				2					雉子谷准教授	
		森林バイオマス科学	森	2				2					亀井准教授	
		森林計画学	森	2					2				甲斐教授	
		環境材料学	森	2					2				中園准教授	
		造林学	森	2					2				伊藤教授	
		生態緑化学	森	2						2			西脇教授	
		水資源管理学	森	2						2			竹下准教授	
		農山村環境計画学	森	2						2			稲垣教授 多炭教授	
		専門英語	森	2						2			関係教員	
		卒業論文	森	4							4		関係教員	
	選択科目	木本植物組織学実験	森		1			1					雉子谷准教授	
		森林保護学	森		2			2					非常勤講師	集中(隔年)
		森林土木学	森		2			2					非常勤講師	集中(隔年)
		樹木生態生理学	森		2			2					伊藤教授	
		木材理学実験	森		1			1					雉子谷准教授	
		木材化学実験	森		1			1					目黒教授 亀井准教授	
		森林緑地フィールド 特別実習	森		1				1				関係教員	集中
		森林政策学	森		2				2				藤掛教授 大地助教	
		きのこ学	森		2				2				目黒教授	
		水理学	森		2				2				稲垣教授	
		土質力学	森		2				2				多炭教授	
		流域防災保全学	森		2				2				清水准教授	

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 基 礎 科 目	水理学演習	森		1					1				竹下准教授	
	土質力学演習	森		1					1				多炭教授	
	森林バイオマス科学実験	森		1					1				目黒教授 亀井准教授	
	学外研修	森		1					1				関係教員	集中
	植物病理学総論	植		2					2				津野准教授	
	ランドスケープ論	森		2					2				細川教授	
	造林学実験実習	森		1					1				伊藤教授	一部集中
	緑の野外実習	森		1					1				高木准教授	集中
	植生立地学	森		2						2			伊藤教授 高木准教授 光田准教授	
	森林資源利用化学	森		2						2			亀井准教授	
	環境緑地学	森		2						2			伊藤教授 西脇教授 高木准教授	
	森林社会学	森		2						2			大地助教	
	木質材料学	森		2						2			雫子谷准教授	
	環境材料学実験	森		1						1			細川教授 中園准教授	
	水理・土質実験	森		1						1			多炭教授 竹下准教授	
	植生調査実習	森		1						1			西脇教授 高木准教授	
	森林計画学実習	森		1						1			甲斐教授 光田准教授	一部集中
	木材保存学	森		2							2		非常勤講師	集中(隔年)
	昆虫生態学	植		2							2		大野准教授	
	土壌肥科学	応		2								2	佐伯教授	
	植物病理学各論	植		2								2	津野准教授	
	雑草防除学	植		2								2	松尾講師	
	総合的害虫管理学	植		2								2	大野准教授	

* 学部共通科目の選択科目は生物学群から2科目4単位、数物化学群から2科目4単位を履修しなければならない。

** 専門基礎科目の選択科目は本学科の選択科目Ⅰ群から2科目4単位以上、選択科目Ⅱ群から2科目2単位以上を履修しなければならない。ただし、専門基礎科目(選択科目)を要件以上に履修した場合、要件を超える分の単位については卒業に必要な専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

*** 専門科目の選択科目は合計24単位以上を履修しなければならない。

応用生物科学科

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
学 部 共 通 科 目	基礎植物学	共		2	2								関係教員	
	基礎動物学	共		2	2								関係教員	
	基礎化学	共	2		2								関係教員	
	基礎数学	共		2	2								関係教員	
	基礎遺伝学	共	2		2								関係教員	
	基礎物理学	共		2		2							関係教員	
	基礎生態学	共		2		2							関係教員	
	基礎微生物学	共	2			2							関係教員	
	基礎環境資源経済学	共		2		2							関係教員	
専 門 基 盤 科 目	生命化学概論	応	2		2								水光教授 榊原(陽)教授	
	有機化学	応	2			2							水光教授	
	無機化学	応	2			2							引間准教授	
	物理化学	応	2				2						西山准教授 井上准教授	
	分析化学	応	2				2						佐伯教授	
	生物有機化学	応	2				2						水光教授	
	食品化学	応	2				2						窄野教授	
	生物化学 I	応	2				2						太田教授 江藤准教授 榊原(陽)教授 山崎(正)准教授	
	生物学実験	応	1				1						酒井教授 國武教授	
	分析化学実験	応	1				1						河原准教授 山崎(正)准教授 引間准教授	
	機器分析化学実験	応	1				1						佐伯教授 山本(昭)助教 河原准教授 窄野教授 仲西准教授 井上准教授 河野准教授	

*「開講」の欄は、主に担当する教員が所属する学科を示す。「植」は植物生産環境科学科。「森」は森林緑地環境科学科。「応」は応用生物科学科。「海」は海洋生物環境学科。「畜」は畜産草地科学科。「獣」は獣医学科。(「共」は学部共通科目を示す。)

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必 修	選 択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 基 盤 科 目	生物化学Ⅱ	応	2					2					江藤准教授	
	有機化学実験	応	1					1					水光教授 西山准教授 窄野教授 榊原(陽)教授 黒木助教	
	微生物学実験	応	1					1					太田教授 吉田(ナ)教授 井上准教授	
	生物化学実験	応	1					1					江藤准教授 榊原(啓)准教授 黒木助教	
	技術者倫理	応	1						1				非常勤講師	集中
専 門 必 修 科 目	食品製造学	応	2				2						西山准教授	
	土壤肥料学	応	2					2					佐伯教授	
	植物遺伝・育種学	応	2					2					國武教授	
	酵素化学	応	2					2					榊原(陽)教授	
	食品分析化学	応	2					2					窄野教授	
	食品衛生学	応	2						2				酒井教授	
	微生物化学	応	2						2				太田教授	
	栄養化学	応	2						2				榊原(啓)准教授	
	入門セミナーⅠ	応	1						1				関係教員	
	化学英語Ⅰ	応	2						2				太田教授 窄野教授 榊原(啓)准教授	
	食品製造学・ 衛生化学実験	応	1						1				窄野教授 河原准教授 西山准教授 酒井教授 引間准教授 仲西准教授	
	生物工学実験	応	1						1				國武教授 吉田(ナ)教授 佐伯教授 山本(昭)助教	
	応用生物化学実験	応	1						1				榊原(陽)教授 江藤准教授 山崎(正)准教授 榊原(啓)准教授 黒木助教	
	食品保蔵化学	応	2							2			河原准教授	
	入門セミナーⅡ	応	1							1			関係教員	集中
	化学英語Ⅱ	応	2							2			國武教授 吉田(ナ)教授	
	卒業論文	応	6								6		関係教員	

区 分			授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
					必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	選択科目	選択実験・実習科目	生物機能科学実験	応		1						1			関係教員	選択実験・実習科目から1単位取得すること
			食品機能化学実験	応		1						1			関係教員	
	選択科目		植物生理学	植		2			2						稲葉(丈)准教授	
			食品工学	応		2			2						山崎(正)准教授	集中(隔年)
			細胞工学	応		2					2				江藤准教授	
			植物遺伝資源学	応		2					2				國武教授	
			公衆衛生学	応		2					2				河野准教授	
			畜産食品製造学	応		2					2				河原准教授 仲西准教授	
			水産食品製造学	応		2						2			引間准教授	
			植物栄養生化学	応		2						2			山本(昭)助教	
			農産食品製造学	応		2						2			西山准教授	
			遺伝子工学	応		2						2			酒井教授	
			微生物機能開発学	応		2						2			吉田(ナ)教授	
			学外研修	応		1						1			関係教員	
			バイオサイエンス	応		2							2		関係教員	
			科学英語	応		2							2		関係教員	
			同位元素利用論	獣		2							2		浅沼教授	
			技術英語	応		1								1	関係教員	

* 学部共通科目の選択科目は合計4単位を履修しなければならない。

** 専門科目の選択実験・実習科目は1単位を履修しなければならない。

*** 専門科目の選択科目は合計24単位以上を履修しなければならない。また、応用生物科学学科のカリキュラム表に記載された科目以外に、他の学科に記載された科目ならびに他の学部との単位互換が認められた科目の中から10単位までを卒業要件の専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

海洋生物環境学科

区 分	授 業 科 目	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
		必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
学 部 共 通 科 目	基礎植物学		2	2								関係教員	
	基礎動物学	2		2								関係教員	
	基礎化学	2		2								関係教員	
	基礎数学		2	2								関係教員	
	基礎遺伝学		2	2								関係教員	
	基礎物理学		2		2							関係教員	
	基礎生態学	2			2							関係教員	
	基礎微生物学		2		2							関係教員	
	基礎環境資源経済学		2		2							関係教員	
専 門 基 盤 科 目	海洋生物環境学実習	1		1								関係教員	集中
	海洋生物環境学概論	2		2								関係教員	一部集中
	海洋生物環境学基礎実験	1			1							関係教員	
	環境微生物学	2				2						吉田(照)教授	
	海洋生物分類学	2				2						三浦教授 内田(勝)准教授 深見准教授	
	海洋生物探査講座		2				2					関係教員	集中
専 門 修 科 目	水域生物生理学	2			2							内田(勝)准教授	
	浅海環境学	2			2							三浦教授	
	水生生物解剖分類学実験	1				1						岩槻教授 深見准教授	
	基礎水域化学	2				2						幡手教授 田中准教授	
	魚類学	2				2						岩槻教授	
	マリンバイオテクノロジー	2				2						林准教授	
	魚類生理学	2				2						香川教授	
	水産化学	2				2						田中准教授	

*「開講」の欄は、主に担当する教員が所属する学科を示す。「植」は植物生産環境科学科。「森」は森林緑地環境科学科。「応」は応用生物科学科。「海」は海洋生物環境学科。「畜」は畜産草地科学科。「獣」は獣医科学科。 (「共」は学部共通科目を示す。)

区 分	授 業 科 目	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
		必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	水族生理学実験	1					1					香川教授 内田(勝)准教授	集中
	水産化学実験Ⅰ	1					1					幡手教授 田中准教授 田岡准教授	集中
	水生生物生体防御学	2					2					伊丹教授	
	水域生物化学	2					2					幡手教授	
	サンゴ礁学	2					2					深見准教授	
	水産食品微生物学	2					2					田岡准教授	
	海洋微生物学実験	1						1				伊丹教授 吉田(照)教授	集中
	専門英語	2							2			関係教員	
	卒業論文	6								6		関係教員	
	マリンダイビング論		2			2						三浦教授 林准教授 深見准教授	
	水族館学		2			2						関係教員 非常勤講師	一部集中
	食品化学		2			2						窄野教授	
	海洋生物学実習		1			1						三浦教授 内田(勝)准教授 深見准教授	集中
	学外研修		1				1					関係教員	
	海洋生物特別講義		2				2					三浦教授 非常勤講師	
	無機化学		2				2					引間准教授	
	組織学		2				2					那須教授 保田准教授	
	水産法規		2					2				非常勤講師	集中(隔年)
	藻類分類学		2					2				非常勤講師	集中(隔年)
	水産飼料学		2					2				田岡准教授	
	水産食品栄養学		2					2				林准教授	
	魚病学		2					2				伊丹教授	
	水族病原微生物学		2					2				吉田(照)教授	
	水族生産学実習		1					1				関係教員	集中

区 分	授 業 科 目	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
		必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	水産資源化学		2					2				幡手教授 田中准教授	
	水産化学実験Ⅱ		1					1				幡手教授 林准教授 田中准教授 田岡准教授	集中
	海洋生物生産学		2					2				伊丹教授 吉田(照)教授	
	昆虫生態学		2					2				大野准教授	
	水文・気象学		2					2				高木准教授 竹下准教授	
	森林生態学		2					2				伊藤教授	
	分析化学		2					2				佐伯教授	
	生物化学Ⅰ		2					2				太田教授 江藤准教授 榊原(陽)教授 山崎(正)准教授	
	食品衛生学		2					2				酒井教授	
	公衆衛生学		2					2				三澤教授 山崎(渉)准教授	
	水産科教育法		4					4				吉田(照)教授	
	漁業学概論		2					2				非常勤講師	集中(隔年)
	水産経済学		2					2				非常勤講師	集中(隔年)
	水産遺伝子工学実験		1					1				吉田(照)教授 林准教授 安田准教授	集中
	海の生物生産体験講座		1					1				関係教員	
	水産増養殖学		2					2				香川教授	
	海洋生物遺伝学		2					2				深見准教授 内田(勝)准教授	
	水域資源保全学		2					2				岩槻教授	
	海洋分子生態学		2					2				安田准教授	
	遺伝子工学		2					2				酒井教授	
	植物バイオテクノロジー		2							2		明石教授	
	水産食品製造学		2							2		引間准教授	

* 学部共通科目、専門基盤科目及び専門科目の選択科目から合計44単位以上取得しなければならない。また、本学科のカリキュラム表に記載された科目以外に、他の学科に記載された科目ならびに他の学部との単位互換が認められた科目の中から20単位までを限度として卒業要件の専門科目(選択科目)の単位に含めることができる。

畜産草地科学科

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
学 部 共 通 科 目	基礎植物学	共	2		2								関係教員	
	基礎動物学	共	2		2								関係教員	
	基礎化学	共	2		2								関係教員	
	基礎数学	共		2	2								関係教員	
	基礎遺伝学	共	2		2								関係教員	
	基礎物理学	共		2		2							関係教員	
	基礎生態学	共		2		2							関係教員	
	基礎微生物学	共		2		2							関係教員	
	基礎環境資源経済学	共		2		2							関係教員	
専 門 基 盤 科 目	必修科目	畜産草地科学序説	畜	2		2							関係教員	
		畜産草地科学基礎実習	畜	1		1							関係教員	集中
		草地・草原環境保全・修復学	畜	2		2							平田教授	
		動物行動学	畜	2		2							関係教員	
		畜産草地科学基礎化学	畜	2			2						續木教授	
		畜産草地科学概論	畜	2			2						関係教員	
		畜産草地科学基礎実験	畜	1			1						関係教員	
	選択科目	植物生理学	植		2			2					稲葉(丈)准教授	
		生命化学概論	応		2			2					水光教授 榑原(陽)教授	
		動物生理学Ⅰ	獣		2			2					村上教授 中原准教授	
		生物化学Ⅱ	応		2				2				江藤准教授	
専 門 科 目	必修科目	家畜栄養学	畜	2				2					森田教授 高橋助教	
		牧場実習Ⅰ	畜	1				1					福山教授 小林助教	集中
		環境草地学	畜	2				2					飛佐准教授	
		動物生殖生理学	畜	2					2				續木教授	

*「開講」の欄は、主に担当する教員が所属する学科を示す。「植」は植物生産環境科学科。「森」は森林緑地環境科学科。「応」は応用生物科学科。「海」は海洋生物環境学科。「畜」は畜産草地科学科。「獣」は獣医学科。（「共」は学部共通科目を示す。）

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	必 修 科 目	草地システム生態学	畜	2				2					平田教授	
		飼料作物学	畜	2				2					石井教授	
		動物環境管理学	畜	2				2					森田教授	
		衛生微生物学	畜	2				2					井口准教授	
		畜産食品科学	畜	2				2					河原准教授	
		動物育種学	畜	2					2				石田准教授	
		草類利用学	畜	2					2				新美助教	
		実践畜産草地生産学	畜	2					2				関係教員	
		動物生殖制御学	畜	2					2				續木教授	
		専門英語	畜	2						2			関係教員	
		卒業論文	畜	6						6			関係教員	
	選 択 科 目	栽培学	植		2		2						湯浅教授	
		動物育種資源学	畜		2			2					石田准教授	
		動物環境管理学実験	畜		1			1					森田教授	
		野生動物学	畜		2			2					森田教授	
		植物バイオテクノロジー	畜		2			2					明石教授	
		草類遺伝資源・育種学実験	畜		1			1					明石教授 権藤助教	
		分析化学	応		2			2					佐伯教授	
		食品化学	応		2			2					窄野教授	
		食品製造学	応		2			2					西山准教授	
		水文・気象学	森		2			2					高木准教授 竹下准教授	
		実践動物園学	畜		2			2					森田教授	一部集中
		学外体験実習	畜		2			2					関係教員	集中
		草地生産・生態学実験	畜		2			2					平田教授 石井教授 飛佐准教授 井戸田助教	
		草地学特別講義	畜		2			2					非常勤講師	集中（隔年）
		草地畜産論	畜		2			2					福山教授	
		飼料学	畜		2			2					森田教授	
		家畜栄養学実験	畜		1			1					高橋助教	

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	動物遺伝育種学実験	畜		1				1					石田准教授 徳永助教	
	土壌管理学概論	畜		2				2					小山田准教授	
	草類利用学実験	畜		1				1					新美助教	
	無機化学	応		2				2					引間准教授	
	環境計測学	森		2				2					高木准教授	
	草地環境科学特別講義	畜		2				2					非常勤講師	集中（隔年）
	食品衛生学	応		2				2					酒井教授	
	動物生殖生理学実験	畜		1						1			續木教授	
	草類バイオマス論	畜		2				2					石井教授	
	地域環境保全論	畜		2				2					小山田准教授	
	森林生態学	森		2				2					伊藤教授	
	実験動物学	獣		2				2					関係教員	集中
	動物解剖学実習	獣		1					1				那須教授 保田准教授	集中
	動物生理学Ⅱ	獣		2				2					村上教授 中原准教授	
	農業経済学	植		2				2					狩野准教授	
	公衆衛生学	応		2				2					河野准教授	
	栄養化学	応		2				2					榊原(啓)准教授	
	生物有機化学	応		2				2					水光教授	
	動物解剖学Ⅰ	獣		2				2					那須教授 保田准教授	
	畜産食品製造学	応		2				2					河原准教授 仲西准教授	
	牧場実習Ⅱ	畜		1					1				福山教授 小林助教	集中
	畜産物科学	畜		2				2					非常勤講師	集中（隔年）

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	食品工学	応		2					2				山崎(正)准教授	集中(隔年)
	薬理学I	獣		2						2			池田教授 園田助教	
	草地植生管理学	畜		2						2			飛佐准教授	
	放牧生態学	畜		2						2			平田教授	
	動物福祉学	畜		2						2			関係教員	
	草類遺伝資源・育種学	畜		2						2			明石教授	
	動物衛生疾病学	獣		2						2			堀井教授 野中准教授	
	動物解剖学Ⅱ	獣		2						2			那須教授 保田准教授	
	毒性学	獣		2						2			池田教授 園田助教	
	動物衛生学	獣		2						2			末吉教授 上村助教	
	有機化学	応		2						2			水光教授	
	食品分析化学	応		2						2			窄野教授	
	食品保蔵化学	応		2						2			河原准教授	
	酵素化学	応		2						2			榊原(陽)教授	
	農産食品製造学	応		2						2			西山准教授	
	遺伝子工学	応		2						2			酒井教授	
	同位元素利用論	獣		2							2		浅沼教授	
	水産食品製造学	応		2								2	引間准教授	
	実験動物学各論	畜		1						1			森田教授	****
	実験動物学実習	畜		1								1	越本講師 篠原講師	集中****
	適正家畜生産規範学	畜		2				2					関係教員	集中****
	適正家畜生産規範学実習	畜		1				1					関係教員	集中****
	実践適正家畜生産規範学	畜		1				1					関係教員	集中****

* 学部共通科目の選択科目は合計6単位を履修しなければならない。

** 専門基盤科目の選択科目は合計4単位を履修しなければならない。

*** 専門科目の選択科目は合計29単位以上を履修すること。また、本学科のカリキュラム表に記載された科目以外に、他の学科に記載された科目ならびに他の学部との単位互換が認められた科目の中から8単位までを限度として卒業要件の専門科目(選択科目)の単位として含めることができる。

**** この科目は、実験動物一級技術者の資格試験受験又は適正家畜生産技術者養成教育の修了に必修であることを示す。ただし、卒業に必要な単位に含めることはできない。

獣医学科

区 分	授 業 科 目	開講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
学 部 共 通 科 目	基礎植物学	共		2	2												関係教員	
	基礎動物学	共		2	2												関係教員	
	基礎化学	共		2	2												関係教員	
	基礎数学	共		2	2												関係教員	
	基礎遺伝学	共	2		2												関係教員	
	基礎物理学	共		2		2											関係教員	
	基礎生態学	共	2			2											関係教員	
	基礎微生物学	共		2		2											関係教員	
	基礎環境資源経済学	共		2		2											関係教員	
専 門 基 盤 科 目	畜産草地科学概論	畜		2		2											関係教員	
	家畜栄養学	畜		2			2										森田教授 高橋助教	
	動物育種資源学	畜		2			2										石田准教授	
	環境草地学	畜		2			2										飛佐准教授	
	動物環境管理学	畜		2				2									森田教授	
	飼料作物学	畜		2				2									石井教授	
	畜産草地科学序説	畜		2					2								関係教員	
	動物育種学	畜		2					2								石田准教授	
	技術者倫理	応		1						1							非常勤講師	

*「開講」の欄は、主に担当する教員が所属する学科を示す。「植」は植物生産環境科学科。「森」は森林緑地環境科学科。「応」は応用生物科学科。「海」は海洋生物環境学科。「畜」は畜産草地科学科。「獣」は獣医学科。（「共」は学部共通科目を示す。）

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
基礎獣医学	獣医学概論・獣医学史	獣	2			2											関係教員	
	動物福祉学	畜	2							2							関係教員	
	獣医畜産法規	獣	2								2						関係教員	
	解剖学Ⅰ	獣	2		2												那須教授 保田准教授	
	解剖学Ⅱ	獣	2			2											那須教授 保田准教授	
	解剖学実習	獣	2				2										那須教授 保田准教授	
	組織学	獣	2			2											那須教授 保田准教授	
	組織学実習	獣	1					1									西野准教授 脇谷助教	
	発生学	獣	2			2											西野准教授 脇谷助教	
	動物生理学Ⅰ	獣	2		2												村上教授 中原准教授	
	動物生理学Ⅱ	獣	2		2												村上教授 中原准教授	
	動物生理学Ⅲ	獣	2			2											村上教授 中原准教授	
	生理学実験実習	獣	1						1								村上教授 中原准教授	
	獣医遺伝子学	獣	2					2									片山准教授	
	生理化学	獣	2					2									西野准教授 脇谷助教	
	生理化学実験実習	獣	1						1								西野准教授 脇谷助教 (片山准教授)	
	薬理学Ⅰ	獣	2					2									池田教授 園田助教	
	薬理学Ⅱ	獣	2						2								池田教授 園田助教	
	薬理学実験	獣	1						1								池田教授 園田助教	
	動物行動学	畜	2				2										関係教員	
	実験動物学	獣	2								2						関係教員	集中
	放射線生物学	獣	2								2						浅沼教授	

区 分	授 業 科 目	開 講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
病態獣医学	動物病理学Ⅰ	獣	2				2										山口教授 平井准教授	
	動物病理学Ⅱ	獣	2					2									山口教授 平井准教授	
	動物病理学Ⅲ	獣	2						2								山口教授 平井准教授	
	動物病理学実習Ⅰ	獣	1							1							山口教授 平井准教授	
	動物病理学実習Ⅱ	獣	1								1						山口教授 平井准教授	
	免疫学	獣	2				2										関係教員	
	微生物学総論	獣	2				2										後藤教授 渡邊准教授	
	微生物学各論Ⅰ	獣	2					2									後藤教授 渡邊准教授	
	微生物学各論Ⅱ	獣	2						2								後藤教授 渡邊准教授	
	微生物学実習	獣	2							2							後藤教授 渡邊准教授	
	家禽疾病学	獣	2							2							末吉教授 上村助教	
	魚類学	海	2						2								岩槻教授	
	魚病学	海	2								2						伊丹教授	
	動物感染症学	獣	2								2						乗峰教授 関口准教授	
	動物感染症学実習	獣	1								1						乗峰教授 関口准教授	
	寄生虫学	獣	2					2									堀井教授 野中准教授	
	臨床寄生虫病学	獣	1										1				堀井教授 野中准教授	
	寄生虫学実習	獣	1					1									堀井教授 野中准教授	
応用獣医学	毒性学	獣	2							2							池田教授 園田助教	
	毒性学実験	獣	1							1							池田教授 園田助教	
	動物衛生学	獣	2							2							末吉教授 上村助教	
	動物衛生学実習	獣	1								1						末吉教授 上村助教	
	獣医公衆衛生学Ⅰ	獣	2								2						三澤教授 山崎(渉)准教授	
	獣医公衆衛生学Ⅱ	獣	2									2					三澤教授 山崎(渉)准教授 関口准教授	
	公衆衛生行政学	獣	1										1				三澤教授 山崎(渉)准教授	
	獣医公衆衛生学実習	獣	1										1				三澤教授 山崎(渉)准教授	

区 分	授 業 科 目	開講	単位数		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
応用獣医学	人獣共通感染症学・疫学	獣	2								2						関係教員	
	人獣共通感染症学実習	獣	1									1					関係教員	
	応用獣医学入門	獣	2					2									関係教員	
	野生動物医学	獣	2				2										非常勤講師 関係教員	
臨床獣医学	獣医臨床学総論Ⅰ	獣	2						2								関係教員	
	獣医臨床学総論Ⅱ	獣	2							2							永延教授 鳥巢准教授	
	獣医臨床学各論Ⅰ	獣	2							2							関係教員	
	獣医臨床学各論Ⅱ	獣	2							2							片本教授 永延教授 日高准教授	
	獣医臨床学各論Ⅲ	獣	2								2						片本教授 永延教授	
	獣医診断治療学Ⅰ	獣	2									2					萩尾教授 浅沼教授 日高准教授 佐藤准教授	
	獣医診断治療学Ⅱ	獣	2									2					萩尾教授 浅沼教授 日高准教授 佐藤准教授	
	獣医診断治療学Ⅲ	獣	2										2				萩尾教授 浅沼教授 日高准教授 佐藤准教授	
	産業動物臨床学	獣	2								2						片本教授	
	臨床繁殖学Ⅰ	獣	2							2							大澤教授	
	臨床繁殖学Ⅱ	獣	2								2						大澤教授	
	馬臨床学	獣	1								1						非常勤講師 関係教員	集中
	小動物内科学実習	獣	1								1						片本教授 阿野助教	
	獣医外科学実習Ⅰ	獣	1								1						関係教員	
	獣医外科学実習Ⅱ	獣	1									1					関係教員	
	産業動物・画像診断学実習	獣	1									1					片本教授 浅沼教授 佐藤准教授 阿野助教	
	獣医診断治療学実習	獣	1											1			浅沼教授 佐藤准教授	
	臨床繁殖学実習	獣	1								1						大澤教授 北原助教	

区 分	授 業 科 目	開講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
その他	獣医解剖学専修実験Ⅰ	獣	1								1						那須教授 保田准教授	*
	獣医解剖学専修実験Ⅱ	獣	1									1					那須教授 保田准教授	*
	獣医生理学専修実験Ⅰ	獣	1								1						村上教授 中原准教授	*
	獣医生理学専修実験Ⅱ	獣	1									1					村上教授 中原准教授	*
	獣医機能生化学 専修実験Ⅰ	獣	1								1						西野准教授 脇谷助教 (片山准教授)	*
	獣医機能生化学 専修実験Ⅱ	獣	1									1					西野准教授 脇谷助教 (片山准教授)	*
	獣医薬理学専修実験Ⅰ	獣	1								1						池田教授 園田助教	*
	獣医薬理学専修実験Ⅱ	獣	1									1					池田教授 園田助教	*
	獣医病理学専修実験Ⅰ	獣	1								1						山口教授 平井准教授	*
	獣医病理学専修実験Ⅱ	獣	1									1					山口教授 平井准教授	*
	産業動物衛生学 専修実験Ⅰ	獣	1								1						末吉教授 上村助教	*
	産業動物衛生学 専修実験Ⅱ	獣	1									1					末吉教授 上村助教	*
	獣医微生物学 専修実験Ⅰ	獣	1								1						後藤教授 渡邊准教授	*
	獣医微生物学 専修実験Ⅱ	獣	1									1					後藤教授 渡邊准教授	*
	獣医公衆衛生学 専修実験Ⅰ	獣	1								1						三澤教授 山崎(渉)准教授	*
	獣医公衆衛生学 専修実験Ⅱ	獣	1									1					三澤教授 山崎(渉)准教授	*
	産業動物伝染病防疫 学専修実験Ⅰ	獣	1								1						乗峰教授 関口准教授	*
	産業動物伝染病防疫 学専修実験Ⅱ	獣	1									1					乗峰教授 関口准教授	*
	獣医寄生虫病学 専修実験Ⅰ	獣	1								1						堀井教授 野中准教授	*
	獣医寄生虫病学 専修実験Ⅱ	獣	1									1					堀井教授 野中准教授	*
	獣医内科学専修実験Ⅰ	獣	1								1						片本教授 阿野助教	*
	獣医内科学専修実験Ⅱ	獣	1									1					片本教授 阿野助教	*
	産業動物内科学専修実験Ⅰ	獣	1								1						片本教授	*
	産業動物内科学専修実験Ⅱ	獣	1									1					片本教授	*

区 分	授 業 科 目	開講	単位数		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		5 年次		6 年次		担当教員	備 考
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
	獣医外科学専修実験Ⅰ	獣	1								1						萩尾教授 日高准教授 都築助教	*
	獣医外科学専修実験Ⅱ	獣	1									1					萩尾教授 日高准教授 都築助教	*
	産業動物臨床繁殖学 専修実験Ⅰ	獣	1								1						大澤教授 北原助教	*
	産業動物臨床繁殖学 専修実験Ⅱ	獣	1									1					大澤教授 北原助教	*
	獣医臨床放射線学 専修実験Ⅰ	獣	1								1						浅沼教授 佐藤准教授	*
	獣医臨床放射線学 専修実験Ⅱ	獣	1									1					浅沼教授 佐藤准教授	*
	動物病院専修実験Ⅰ	獣	1								1						永延教授 鳥巢准教授	*
	動物病院専修実験Ⅱ	獣	1									1					永延教授 鳥巢准教授	*
	畜産学実習	獣	1						1								福山教授 小林助教	集中
	放牧生態学	畜	2							2							平田教授	
	欧文獣医学演習Ⅰ	獣	1								1						関係教員	*
	欧文獣医学演習Ⅱ	獣	1									1					関係教員	*
	伴侶動物参加型臨床実習Ⅰ	獣	1											1			関係教員	
	伴侶動物参加型臨床実習Ⅱ	獣	1												1		関係教員	
	産業動物参加型臨床実習	獣	2											2			関係教員	
	獣医臨床特別講義	獣	2												2		関係教員	集中（隔年）
	獣医インターンシップ	獣	1												1		関係教員	
	卒業論文	獣	8												8		関係教員	*
	海外獣医学研修	獣		1													関係教員	**
アドバンス科目	アドバンス産業動物学Ⅰ	獣		1									1				コーディネーター 末吉教授	アドバンス科目は 7単位中 4単位以上 を選択
	アドバンス産業動物学Ⅱ	獣		1										1			コーディネーター 山口教授	
	アドバンス産業動物学Ⅲ	獣		1											1		コーディネーター 大澤教授	
	アドバンス応用獣医学Ⅰ	獣		1									1				コーディネーター 後藤教授	
	アドバンス応用獣医学Ⅱ	獣		1										1			コーディネーター 関口准教授	
	アドバンス伴侶動物学Ⅰ	獣		1											1		コーディネーター 浅沼教授	
	アドバンス伴侶動物学Ⅱ	獣		1												1	コーディネーター 日高准教授	

備考欄に*印を付した専修実験、欧文獣医学演習及び卒業論文は、所属の研究室又は動物病院において修得するものとする。
備考欄に**印を付した科目は卒業要件に含めない。

授業科目担当教員（関係教員）一覧表

※（ ）は協力教員として担当

学部共通科目

授業科目	担 当 教 員
基 礎 植 物 学	位田教授・明石教授・鉄村教授・石井教授・湯浅教授・飛佐准教授 小山田准教授・雉子谷准教授・高木准教授・稲葉(丈)准教授・圖師准教授 本勝准教授・松尾講師・山本(昭)助教・霧村助教
基 礎 動 物 学	酒井教授・香川教授・芦澤教授・村上教授・山口教授・森田教授・片本教授 大澤教授・中原准教授・内田(勝)准教授・保田准教授・平井准教授
基 礎 化 学	目黒教授・幡手教授・水光教授・榊原(陽)教授・佐伯教授・續木教授 江藤准教授・山崎(正)准教授・西野准教授・田岡准教授・圖師准教授 引間准教授・井上准教授
基 礎 数 学	細川教授・稲垣教授 宇田津教授・槐島准教授・中園准教授・清水准教授・竹下准教授
基 礎 遺 伝 学	後藤教授・明石教授・池田教授・國武教授・浅沼教授・石田准教授 西野准教授・佐藤准教授・井口准教授・園田助教・脇谷助教
基 礎 物 理 学	細川教授・稲垣教授・浅沼教授・多炭教授 槐島准教授・中園准教授・清水准教授・日吉助教
基 礎 生 態 学	那須教授・西脇教授・伊藤教授・三浦教授・岩槻教授・平田教授 大野准教授・深見准教授・日高准教授・井戸田助教
基 礎 微 生 物 学	太田教授・伊丹教授・後藤教授・堀井教授・三澤教授 吉田(ナ)教授・末吉教授・乗峰教授・吉田(照)教授・林准教授・野中准教授 渡邊准教授・山崎(渉)准教授
基 礎 環 境 資 源 経 済 学	藤掛教授・山本(直)教授・狩野准教授・大地助教

植物生産環境科学科

授業科目	担 当 教 員
植物生産環境科学概論	位田教授・御手洗教授・山本(直)教授・鉄村教授・湯淺教授・豊満准教授・槐島准教授 木下准教授・狩野准教授・稲葉(丈)准教授・圖師准教授・大野准教授・津野准教授 本勝准教授・松尾講師・日吉助教・霧村助教・(内田(好)准教授)・(宇田津教授)
植物生産環境科学基礎実験・実習Ⅰ・Ⅱ	位田教授・御手洗教授・山本(直)教授・鉄村教授・湯淺教授・豊満准教授・槐島准教授 木下准教授・狩野准教授・稲葉(丈)准教授・圖師准教授・大野准教授・津野准教授 本勝准教授・松尾講師・日吉助教・霧村助教・(内田(好)准教授)・(宇田津教授)
農場実習Ⅰ・Ⅱ	位田教授・鉄村教授・湯淺教授・稲葉(丈)准教授・圖師准教授・大野准教授・津野准教授 槐島准教授・本勝准教授・松尾講師・日吉助教・霧村助教・(内田(好)准教授)・(宇田津教授)
植物生産科学実験Ⅰ・Ⅱ	位田教授・鉄村教授・湯淺教授・稲葉(丈)准教授・圖師准教授・大野准教授・津野准教授 本勝准教授・松尾講師・霧村助教
学外体験実習・短期学外体験実習	位田教授・御手洗教授・山本(直)教授・鉄村教授・湯淺教授・豊満准教授・槐島准教授 木下准教授・狩野准教授・稲葉(丈)准教授・圖師准教授・大野准教授・津野准教授 本勝准教授・松尾講師・日吉助教・霧村助教・(内田(好)准教授)・(宇田津教授)
グローバルアグリ体験講座	位田教授・御手洗教授・山本(直)教授・鉄村教授・湯淺教授・豊満准教授・槐島准教授 木下准教授・狩野准教授・稲葉(丈)准教授・圖師准教授・大野准教授・津野准教授 本勝准教授・松尾講師・日吉助教・霧村助教・(内田(好)准教授)・(宇田津教授)
入門セミナー	位田教授・御手洗教授・山本(直)教授・鉄村教授・湯淺教授・豊満准教授・槐島准教授 木下准教授・狩野准教授・稲葉(丈)准教授・圖師准教授・大野准教授・津野准教授 本勝准教授・松尾講師・日吉助教・霧村助教・稲葉(靖)助教・(内田(好)准教授)・(宇田津教授)
専門英語Ⅰ・Ⅱ	位田教授・御手洗教授・山本(直)教授・鉄村教授・湯淺教授・豊満准教授・槐島准教授 木下准教授・狩野准教授・稲葉(丈)准教授・圖師准教授・大野准教授・津野准教授 本勝准教授・松尾講師・日吉助教・霧村助教・(内田(好)准教授)・(宇田津教授)
フィールド実践実習(農場)	内田(好)准教授・西脇教授・(位田教授)・(國武教授)・(御手洗教授)・(鉄村教授) (小山田准教授)・(圖師准教授)・(狩野准教授)・(大野准教授)・(山本(直)教授) (槐島准教授)・(佐伯教授)・(宇田津教授)・(松尾講師)・(木下准教授)・(日吉助教) (竹下准教授)・(本勝准教授)・(霧村助教)
卒業論文	指導教員

森林緑地環境科学科

授業科目	担 当 教 員
森林緑地環境科学概論	甲斐教授・細川教授・目黒教授・稲垣教授・伊藤教授・藤掛教授・多炭教授 清水准教授・雉子谷准教授・中園准教授・竹下准教授・光田准教授・亀井准教授 大地助教・(西脇教授)・(高木准教授)
森林緑地フィールド実習Ⅰ・Ⅱ	甲斐教授・細川教授・目黒教授・稲垣教授・伊藤教授・藤掛教授・多炭教授 清水准教授・雉子谷准教授・中園准教授・竹下准教授・光田准教授・亀井准教授 大地助教・(西脇教授)・(高木准教授)
測量学Ⅰ・Ⅱ	細川教授・稲垣教授・多炭教授・清水准教授・中園准教授・竹下准教授
測量学実習Ⅰ・Ⅱ	細川教授・稲垣教授・多炭教授・清水准教授・中園准教授・竹下准教授
入門セミナー	甲斐教授・細川教授・目黒教授・稲垣教授・伊藤教授・藤掛教授・多炭教授 清水准教授・雉子谷准教授・中園准教授・竹下准教授・光田准教授・亀井准教授 大地助教・(西脇教授)・(高木准教授)
専門英語	甲斐教授・細川教授・目黒教授・稲垣教授・伊藤教授・藤掛教授・多炭教授 清水准教授・雉子谷准教授・中園准教授・竹下准教授・光田准教授・亀井准教授 大地助教・(西脇教授)・(高木准教授)
森林緑地フィールド特別実習	甲斐教授・細川教授・目黒教授・稲垣教授・伊藤教授・藤掛教授・多炭教授 清水准教授・雉子谷准教授・中園准教授・竹下准教授・光田准教授・亀井准教授 大地助教・(西脇教授)・(高木准教授)
学外研修	甲斐教授・細川教授・目黒教授・稲垣教授・伊藤教授・藤掛教授・多炭教授 清水准教授・雉子谷准教授・中園准教授・竹下准教授・光田准教授・亀井准教授 大地助教・(西脇教授)・(高木准教授)
卒業論文	指導教員

応用生物科学科

授業科目	担 当 教 員
入 門 セ ミ ナ ー I	水光教授・太田教授・酒井教授・窄野教授・國武教授・吉田(ナ)教授・榊原(陽)教授 佐伯教授・西山准教授・江藤准教授・河原准教授・山崎(正)准教授・榊原(啓)准教授 引間准教授・仲西准教授・井上准教授・河野准教授・山本(昭)助教・黒木助教
入 門 セ ミ ナ ー II	水光教授・太田教授・酒井教授・窄野教授・國武教授・吉田(ナ)教授・榊原(陽)教授 佐伯教授・西山准教授・江藤准教授・河原准教授・山崎(正)准教授・榊原(啓)准教授 引間准教授・仲西准教授・井上准教授・河野准教授・山本(昭)助教・黒木助教
生 物 機 能 科 学 実 験	國武教授・吉田(ナ)教授・榊原(陽)教授・佐伯教授・江藤准教授 山本(昭)助教・黒木助教
食 品 機 能 化 学 実 験	酒井教授・窄野教授・西山准教授・河原准教授・山崎(正)准教授 引間准教授・榊原(啓)准教授・仲西准教授
バ イ オ サ イ エ ン ス	水光教授・太田教授・酒井教授・窄野教授・國武教授・吉田(ナ)教授・榊原(陽)教授 佐伯教授・西山准教授・江藤准教授・河原准教授・山崎(正)准教授・榊原(啓)准教授 引間准教授・仲西准教授・井上准教授・河野准教授・山本(昭)助教・黒木助教
科 学 英 語	水光教授・太田教授・酒井教授・窄野教授・國武教授・吉田(ナ)教授・榊原(陽)教授 佐伯教授・西山准教授・江藤准教授・河原准教授・山崎(正)准教授・榊原(啓)准教授 引間准教授・仲西准教授・井上准教授・河野准教授・山本(昭)助教・黒木助教
技 術 英 語	水光教授・太田教授・酒井教授・窄野教授・國武教授・吉田(ナ)教授・榊原(陽)教授 佐伯教授・西山准教授・江藤准教授・河原准教授・山崎(正)准教授・榊原(啓)准教授 引間准教授・仲西准教授・井上准教授・河野准教授・山本(昭)助教・黒木助教
学 外 研 修	水光教授・太田教授・酒井教授・窄野教授・國武教授・吉田(ナ)教授・榊原(陽)教授 佐伯教授・西山准教授・江藤准教授・河原准教授・山崎(正)准教授・榊原(啓)准教授 引間准教授・仲西准教授・井上准教授・河野准教授・山本(昭)助教・黒木助教
卒 業 論 文	指導教員

海洋生物環境学科

授業科目	担 当 教 員
海洋生物環境学概論	三浦教授・伊丹教授・香川教授・幡手教授・岩槻教授・吉田(照)教授・林准教授 内田(勝)准教授・田中准教授・深見准教授・田岡准教授・ウルバンチック准教授 安田准教授・(神田教授)
海洋生物環境学実習	三浦教授・伊丹教授・香川教授・幡手教授・岩槻教授・吉田(照)教授・林准教授 内田(勝)准教授・田中准教授・深見准教授・田岡准教授・ウルバンチック准教授 安田准教授・(神田教授)
海 洋 生 物 環 境 学 基 礎 実 験	三浦教授・伊丹教授・香川教授・幡手教授・岩槻教授・吉田(照)教授・林准教授 内田(勝)准教授・田中准教授・深見准教授・田岡准教授・ウルバンチック准教授 安田准教授・(神田教授)
海 洋 生 物 探 査 講 座	三浦教授・伊丹教授・香川教授・幡手教授・岩槻教授・吉田(照)教授・林准教授 内田(勝)准教授・田中准教授・深見准教授・田岡准教授・ウルバンチック准教授 安田准教授・(神田教授)
専 門 英 語	三浦教授・伊丹教授・香川教授・幡手教授・岩槻教授・吉田(照)教授・林准教授 内田(勝)准教授・田中准教授・深見准教授・田岡准教授・ウルバンチック准教授 安田准教授・(神田教授)
水 族 館 学	三浦教授・香川教授・岩槻教授・吉田(照)教授・内田(勝)准教授・深見准教授
学 外 研 修	三浦教授・伊丹教授・香川教授・幡手教授・岩槻教授・吉田(照)教授・林准教授 内田(勝)准教授・田中准教授・深見准教授・田岡准教授・ウルバンチック准教授 安田准教授・(神田教授)
水 族 生 産 学 実 習	三浦教授・伊丹教授・香川教授・幡手教授・岩槻教授・吉田(照)教授・林准教授 内田(勝)准教授・田中准教授・深見准教授・田岡准教授・ウルバンチック准教授・安田准教授
海 の 生 物 生 産 体 験 講 座	三浦教授・伊丹教授・香川教授・幡手教授・岩槻教授・吉田(照)教授・林准教授 内田(勝)准教授・田中准教授・深見准教授・田岡准教授・ウルバンチック准教授・安田准教授
卒 業 論 文	指導教員

畜産草地科学科

授業科目	担 当 教 員
畜産草地科学序説	芦澤教授・平田教授・森田教授・石井教授・明石教授・續木教授・小山田准教授 飛佐准教授・石田准教授・井口准教授・高橋助教・新美助教・井戸田助教 徳永助教・(権藤助教)
畜産草地科学概論	芦澤教授・平田教授・森田教授・石井教授・明石教授・續木教授・小山田准教授 飛佐准教授・石田准教授・井口准教授・高橋助教・新美助教・井戸田助教 徳永助教・(権藤助教)
畜産草地科学基礎実習	芦澤教授・平田教授・森田教授・石井教授・明石教授・續木教授・小山田准教授 飛佐准教授・石田准教授・井口准教授・高橋助教・新美助教・井戸田助教 徳永助教・(福山教授)・(小林助教)・(権藤助教)
畜産草地科学基礎実験	芦澤教授・平田教授・森田教授・石井教授・明石教授・續木教授・小山田准教授 飛佐准教授・石田准教授・井口准教授・高橋助教・新美助教・井戸田助教 徳永助教・(権藤助教)
入門セミナー	芦澤教授・平田教授・森田教授・石井教授・明石教授・續木教授・小山田准教授 飛佐准教授・石田准教授・井口准教授・高橋助教・新美助教・井戸田助教 徳永助教・(福山教授)・(小林助教)・(権藤助教)
学外体験実習	芦澤教授・平田教授・森田教授・石井教授・明石教授・續木教授・小山田准教授 飛佐准教授・石田准教授・井口准教授・高橋助教・新美助教・井戸田助教 徳永助教・(福山教授)・(小林助教)・(権藤助教)
専門英語	芦澤教授・平田教授・森田教授・石井教授・明石教授・續木教授・小山田准教授 飛佐准教授・石田准教授・井口准教授・高橋助教・新美助教・井戸田助教 徳永助教・(福山教授)・(小林助教)・(権藤助教)
動物行動学	森田教授・(那須教授)・(村上教授)・(池田教授)・(萩尾教授) (片本教授)・(浅沼教授)・(永延教授)・(保田准教授)・(中原准教授) (日高准教授)・(佐藤准教授)・(鳥巢准教授)
実践畜産草地生産学	芦澤教授・平田教授・森田教授・石井教授・明石教授・續木教授・小山田准教授 飛佐准教授・石田准教授・井口准教授・高橋助教・新美助教・井戸田助教 徳永助教・(権藤助教)
動物福祉学	森田教授・三澤教授・池田教授・日高准教授・山崎(渉)准教授・鳥巢准教授 越本講師・篠原講師
適正家畜生産規範学	平田教授・森田教授・石井教授・石田准教授・高橋助教・新美助教・徳永助教 (福山教授)・(小林助教)・(村上教授)・(後藤教授)・(三澤教授)・(池田教授) (末吉教授)・(山崎(渉)准教授)・(北原助教)・(國武教授)・(西脇教授)・(石若助教)
適正家畜生産規範学実習	平田教授・森田教授・石井教授・石田准教授・高橋助教・新美助教・徳永助教 (福山教授)・(小林助教)・(村上教授)・(後藤教授)・(三澤教授)・(池田教授) (末吉教授)・(山崎(渉)准教授)・(北原助教)・(國武教授)・(西脇教授)・(石若助教)
実践適正家畜生産規範学	平田教授・森田教授・石井教授・石田准教授・高橋助教・新美助教・徳永助教 (福山教授)・(小林助教)・(村上教授)・(後藤教授)・(三澤教授)・(池田教授) (末吉教授)・(北原助教)・(國武教授)・(西脇教授)・(石若助教)
卒業論文	指導教員

獣医学科

授業科目	担 当 教 員
獣医学概論・獣医学史	1年次クラス担任
獣 医 畜 産 法 規	三澤教授・日高准教授・山崎(渉)准教授・阿野助教・北原助教・上村助教
免 疫 学	後藤教授・乗峰教授・保田准教授・渡邊准教授
人獣共通感染症学・疫学	堀井教授・後藤教授・三澤教授・末吉教授・乗峰教授 渡邊准教授・野中准教授・山崎(渉)准教授・関口准教授・上村助教
人獣共通感染症学実習	堀井教授・後藤教授・三澤教授・末吉教授・乗峰教授 渡邊准教授・野中准教授・山崎(渉)准教授・関口准教授・上村助教
応 用 獣 医 学 入 門	堀井教授・後藤教授・三澤教授・末吉教授・乗峰教授 渡邊准教授・野中准教授・山崎(渉)准教授・関口准教授・鳥巢准教授・上村助教
野 生 動 物 医 学	永延教授・那須教授・山口教授・野中准教授
獣 医 臨 床 学 総 論 I	萩尾教授・片本教授・永延教授・日高准教授・鳥巢准教授
獣 医 臨 床 学 各 論 I	萩尾教授・浅沼教授・永延教授・日高准教授・佐藤准教授
獣 医 外 科 学 実 習 I	萩尾教授・永延教授・日高准教授・鳥巢准教授・都築助教
獣 医 外 科 学 実 習 II	萩尾教授・永延教授・日高准教授・鳥巢准教授・都築助教
実 験 動 物 学	越本教授(医学部)・村上教授・後藤教授・山口教授・那須教授 池田教授・野中准教授・平井准教授・渡邊准教授
獣医インターンシップ	6年次クラス担任
欧文獣医学演習Ⅰ・Ⅱ	指導教員
伴侶動物参加型臨床実習Ⅰ・Ⅱ(病院臨床実習)	萩尾教授・大澤教授・堀井教授・片本教授・浅沼教授・永延教授 日高准教授・佐藤准教授・野中准教授・鳥巢准教授・阿野助教・北原助教・都築助教
産業動物参加型臨床実習	萩尾教授・大澤教授・堀井教授・片本教授・浅沼教授・永延教授・日高准教授 佐藤准教授・野中准教授・鳥巢准教授・阿野助教・北原助教・小林助教・都築助教
獣 医 臨 床 特 別 講 義	萩尾教授・大澤教授・堀井教授・片本教授・浅沼教授・永延教授・日高准教授 佐藤准教授・野中准教授・鳥巢准教授
馬 臨 床 学	萩尾教授・堀井教授・片本教授・浅沼教授・永延教授 日高准教授・佐藤准教授・鳥巢准教授
卒 業 論 文	指導教員

アドバンス科目	コーディネーター教員
アドバンス産業動物学Ⅰ	末吉教授
アドバンス産業動物学Ⅱ	山口教授
アドバンス産業動物学Ⅲ	大澤教授
アドバンス応用獣医学Ⅰ	後藤教授
アドバンス応用獣医学Ⅱ	関口准教授
アドバンス伴侶動物学Ⅰ	浅沼教授
アドバンス伴侶動物学Ⅱ	日高准教授

9. 教員免許状及びその他の資格取得について

(1) 教育職員免許状（高等学校教諭1種普通免許状）の取得について

教員免許状の取得を希望する者については、別に定める必要な単位を修得し、各都道府県の教育委員会に申請をした者に高等学校教諭1種免許状が与えられる。

1) 農学部学生の取得できる免許状の種類及び教科

学 科	免許状の種類	免許教科
植 物 生 産 環 境 科 学 科	高等学校教諭1種免許状	農業・理科
森 林 緑 地 環 境 科 学 科	〃	農業・理科
応 用 生 物 科 学 科	〃	農業・理科
海 洋 生 物 環 境 学 科	〃	水産・理科
畜 産 草 地 科 学 科	〃	農業・理科
獣 医 学 科	〃	農 業

2) 免許状を取得するための単位修得方法

① 基礎資格及び修得単位数

第1欄		第2欄	第3欄			
所要資格 免許状の種類		基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数			
			教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	特殊教育に関する科目
高等学校教諭	1種 免許状	学士の学位を有すること。	20	23	16	

※学士力発展科目 日本国憲法（2単位）は必ず履修すること。

② 教科に関する専門科目

第1欄	第2欄	第3欄	
免許教科	教科に関する科目	最低必要単位数	
農 業	農 業 の 関 係 科 目	20	18
	職 業 指 導		2
水 産	水 産 の 関 係 科 目	20	18
	職 業 指 導		2
理 科	物 理 学	20	1
	化 学		1
	生 物 学		1
	地 学		1
	「物理学実験(コンピュータ活用を含む)、 化学実験(コンピュータ活用を含む)、 生物学実験(コンピュータ活用を含む)、 地学実験(コンピュータ活用を含む)」		1

③ 教職に関する専門科目

免許法施行規則に定める 専 門 教 育 科 目 区 分		左記に対応する開設 授 業 科 目 名		免許教科
科 目	単位数	授 業 科 目	単位数	
教職の意義等 に関する科目	2	教 職 入 門	②	農 業 水 産 理 科
		計	2	
教育の基礎理 論に関する科 目	6	教 育 本 質 論	②	
		学 校 教 育 心 理 学	②	
		教 育 制 度 論	②	
		計	6	
		教 育 課 程 論	②	
教育課程及び 指導法に関す る科目	6	特 別 活 動 論	②	農 業
		教育の方法と技術 (情報機器及び教材 の活用を含む)	②	
		農 業 科 教 育 法 I	2	水 産
		農 業 科 教 育 法 II	2	
		水 産 科 教 育 法	4	理 科
		教 科 教 育 法 (中 等 理 科)	2	
		教 科 教 育 法 (理 科)	2	
		計	10	
生徒指導、教 育相談及び進 路指導等に関 する科目	4	生 徒 指 導 概 論 (進路指導を含む)	②	農 業 水 産 理 科
		教 育 相 談 心 理 学 (カウンセリングの 基礎的知識を含む)	②	
		計	4	

教育実習	3	教育実習事前指導 及び事後指導	①	農水理 業産科
		教 育 実 習	②	
		計	3	
教職実践演習	2	教職実践演習（高）	②	
		計	2	
合計	23	合 計	27	

- ※1. ○印は必修単位を表す。
2. 教育課程及び指導法に関する科目のうち、各教科の指導法については、農業コースは農業科教育法Ⅰ及び農業科教育法Ⅱ、水産コースは水産科教育法、理科コースは教科教育法（中等理科）・教科教育法（理科）の4単位を必ず履修すること。
3. 法令では、最低修得単位数23単位であるが、農学部においては最低27単位は修得すること。

(2) 学芸員資格の取得について

- (1) 学芸員は、国・公・私立等の博物館等において、資料の収集・保存・管理、展示、調査研究、教育・普及活動等の専門的業務に従事する。
- (2) 学芸員の資格を取得するには、博物館法施行規則の定める科目（①表）19単位、併せて教育文化学部の定める科目（②表）、工学部の定める科目（③表）ならびに農学部定める科目（④表）について2科目区分以上にわたる8単位以上を修得しなければならない。
②表～④表の科目については、所属学部のもを受講することを原則とする。なお、工学部及び農学部の学生で、文化史、美術史、考古学の科目区分の単位修得を希望する場合については、他学部受講の手続きの上、受講することができる。
- (3) 博物館実習は、「博物館実習履修要項」により実施する。なお、博物館実習を履修するためには、次の2つの条件を満たしていなければならない。
 - ・①表の科目のうち、博物館実習を除く科目の単位の12単位以上を、修得しているか修得見込みであること。
 - ・②表～④表の科目のうち、2科目区分以上にわたる科目の4単位以上を、修得しているか修得見込みであること。
- (4) 所定の単位を修得した者には、卒業後、願い出により「学芸員に関する科目の単位修得証明書」を交付する。

①表 博物館法施行規則の定める科目

博物館法施行規則が定める科目 ()内は単位数	宮崎大学の授業科目	単 位 数	配当学年
生涯学習概論(2)	生涯学習論	2	2年前学期
博物館概論(2)	博物館概論	2	2年前学期
博物館経営論(2)	博物館経営論	2	3年前学期
博物館資料論(2)	博物館資料論	2	3年集中
博物館資料保存論(2)※	博物館資料保存論	2	3年集中
博物館展示論(2)	博物館展示論	2	3年集中
博物館教育論(2)	博物館教育論	2	3年集中
博物館情報・メディア論(2)※	博物館情報・メディア論	2	2年集中
博物館実習(3)	博物館実習Ⅰ	2	4年通年
	博物館実習Ⅱ	1	4年通年
単 位 計		19	

注1)「生涯学習論」および「博物館概論」は基礎教育科目

注2)※の科目については、隔年開講となる。そのため、受講にあたっては、開講予定年度に注意が必要である。

注3)資格取得を希望する者は、2年次に「博物館概論」を受講しておくことが望ましい。

②表 教育文化学部の定める科目

科目区分	教育文化学部の授業科目	単位
文 化 史	日本の歴史と文化※	2
	日本史概説※	2
	西洋史概説※※	2
美 術 史	比較芸術文化論Ⅰ(美術系)※※	2
	美術鑑賞基礎※	2
	美術理論Ⅱ	2
	美術理論Ⅲ	2
考 古 学	考古学概論Ⅰ※※	2
物 理 学	物理学概論Ⅰ	2
	物理学概論Ⅱ	2
化 学	化学概論Ⅰ	2
	化学概論Ⅱ	2
生 物 学	生物学概論Ⅰ	2
	生物学概論Ⅱ	2
地 学	地学概論Ⅰ	2
	地学概論Ⅱ	2

注1) 科目名の後にある※は課程共通科目、※※は人間社会課程の科目、他は学校教育課程の開講科目を表す。

注2) 配当学年については学科等で異なるものがあるので、各自確認の上、受講すること。

③表 工学部の定める科目

科目区分	工学部の授業科目	単位数
物 理 学	物理学概論※	2
	力学	2
	電磁気学	2
	工学のための物理学	2
	物理科学	2
	力学Ⅰ	3
	力学Ⅱ	2
	電磁気学Ⅰ	3
	統計力学	2
	量子力学	2
	電気回路Ⅰ	2
	放射線計測工学	2
化 学	化学概論※	2
	物理化学Ⅰ	2
	有機化学Ⅰ	2
	無機化学Ⅰ	2
	分析化学Ⅰ	2
	環境化学Ⅱ	2
	基礎化学	2
生 物 学	生物学概論※	2
	生物化学Ⅰ	2
	微生物工学	2
	分子生物工学	2
地 学	地学概論※	2
	環境化学Ⅰ	2
	環境計測工学	2

注1) 科目名の横に※があるものは、教育職員免許状取得のために開講している科目。

注2) 配当学年については学科等で異なるものがあるので、各自確認の上、受講すること。

④表 農学部の定める科目

科 目 区 分	農 学 部 の 授 業 科 目	単 位
物 理 学	物理学概論 ※	2
	物理化学	2
化 学	基礎化学	2
	畜産草地科学基礎化学	2
	分析化学	2
	無機化学	2
	有機化学	2
	生物化学Ⅰ	2
生 物 学	基礎植物学	2
	基礎動物学	2
	基礎微生物学	2
	昆虫生態学	2
	基礎生態学	2
地 学	地学概論 ※	2
	土壌肥科学	2

注1) 科目名の横に※があるものは、教育職員免許状取得のために開講している科目。

注2) 配当学年については学科等で異なるものがあるので、各自確認の上、受講すること。

注3) 1行に2科目並んでいる科目は、そのうちのいずれかを選択。

【博物館実習履修要項】

博物館実習は次により実施する。

授 業 科 目	学 期		計	実 習 内 容
	前	後		
博物館実習Ⅰ	2 (通年・集中)		2	学内実習（実習Ⅱに必要な基礎的知識や技術に関する実習）および実習の事前・事後指導
博物館実習Ⅱ	1 (通年・集中)		1	登録博物館等での実務実習。実施時期は受入博物館等の定めるところによる。

- (1) 実習Ⅱを履修しようとする者は、実習を希望する年の1月末日までに、出身都道府県を基本として、登録博物館あるいは博物館相当施設に実習の受入依頼をしておくこと。
- (2) 「博物館実習受講願い」を、実習を希望する年の1月20日までに所属学部の教務・学生支援係に提出すること。
- (3) 博物館実習Ⅰ・Ⅱの受講科目の登録は4年前期で行うこと。
- (4) 実習Ⅰ及びⅡの成績評価は、博物館実習運営評価委員会で行う。
- (5) 実習Ⅱに必要な教材等は受講生が各自準備することを原則とする。
- (6) 実習Ⅱに必要な費用は個人負担とする。

(3) 食品衛生監視員及び食品衛生管理者資格取得について

1) 食品衛生監視員とは、国や地方公共団体において、企業等に対し、食品衛生に関する監視や指導の業務を行うものである。また、食品衛生管理者とは、特に衛生上の考慮を必要とする乳製品やその他の食品又は添加物製造や加工について、その製造・加工施設において管理・指導を行う者である。

本学卒業後、国や地方公共団体の衛生部門、食品関連企業等に就職する者にとっては、これらの資格を取得することが有益である。

これらの資格を取得したい者（植物生産環境科学科、応用生物科学科、海洋生物環境学科、畜産草地科学科）は、下記に示す必要な科目を履修すること。また、必要な科目を履修し、卒業後、資格取得手続きが必要となった者には、食品衛生コースの修了を証する卒業・学位証明書を発行するので農学部教務・学生支援係まで問い合わせること。

★注意事項：入学前に他大学等で修得した単位（食品衛生監視員及び食品衛生管理者の養成施設で修得した単位は除く）で、既修得単位として読み替えられた単位については、資格取得には使用できません。

●植物生産環境科学科

区 分	授 業 科 目 名	配当年次	配当単位数	必修単位数
A群 化学	分析化学	2 前	2	2
	畜産草地科学基礎化学	1 後	2	2
	基礎化学	1 前	2	2
B群 生物化学	生物化学Ⅱ	2 後	2	2
	食品化学	2 前	2	2
	食品分析化学	4 後	2	2
C群 微生物学	基礎微生物学	1 後	2	2
	食品保蔵化学	3 後	2	2
	食品製造学	2 前	2	2
D群 公衆衛生学	公衆衛生学	3 前	2	2
	食品衛生学	3 前	2	2
E群 その他の関連科目	同位元素利用論	4 前	2	左記の20単位のうちから18単位以上を修得すること。
	植物生理学	2 前	2	
	果樹園芸生理学	2 後	2	
	青果代謝生理学	3 前	2	
	微生物機能開発学	3 後	2	
	基礎遺伝学	1 前	2	
	農産食品製造学	3 後	2	
	食品工学	3・4 前後	2	
	園芸利用学	2 後	2	
	農業システム学	2 後	2	
必修単位数合計				40 以上

●応用生物科学科

区 分	授 業 科 目 名	配当年次	配当単位数	必修単位数
A群 化学	分析化学	2 前	2	2
	有機化学	1 後	2	2
	無機化学	1 後	2	2
B群 生物化学	生物化学Ⅱ	2 後	2	2
	食品化学	2 前	2	2
	食品分析化学	2 後	2	2
C群 微生物学	基礎微生物学	1 後	2	2
	食品製造学	2 前	2	2
	食品保蔵化学	3 後	2	2
D群 公衆衛生学	公衆衛生学	3 前	2	2
	食品衛生学	3 前	2	2
E群 その他の関連科目	生物有機化学	2 前	2	左記の24単位のうちから18単位以上を修得すること。
	酵素化学	2 後	2	
	微生物化学	3 前	2	
	基礎遺伝学	1 前	2	
	栄養化学	3 前	2	
	同位元素利用論	4 前	2	
	微生物機能開発学	3 後	2	
	遺伝子工学	3 後	2	
	水産食品製造学	3 後	2	
	畜産食品製造学	3 前	2	
	農産食品製造学	3 後	2	
	食品工学	2・3 前後	2	
必修単位数合計				40 以上

●海洋生物環境学科

区 分	授 業 科 目 名	配当年次	配当単位数	必修単位数
A群 化学	分析化学	3 前	2	2
	有機化学	4 後	2	2
	基礎化学	1 前	2	2
B群 生物化学	生物化学Ⅱ	4 後	2	2
	食品化学	2 前	2	2
	食品分析化学	3 後	2	2
C群 微生物学	基礎微生物学	1 後	2	2
	食品保蔵化学	4 後	2	2
	食品製造学	4 前	2	2
D群 公衆衛生学	公衆衛生学	3 前	2	2
	食品衛生学	3 前	2	2
E群 その他の関連科目	水産化学	2 前	2	2
	水域生物化学	2 後	2	2
	水産資源化学	3 前	2	2
	魚類生理学	2 前	2	2
	水域生物生理学	1 後	2	2
	水族病原微生物学	3 前	2	2
	基礎遺伝学	1 前	2	2
	水産食品栄養学	3 前	2	2
	水産食品製造学	4 後	2	2
必修単位数合計				40

●畜産草地科学科

区 分	授 業 科 目 名	配当年次	配当単位数	必修単位数
A群 化学	分析化学	2 前	2	2
	畜産草地科学基礎化学	1 後	2	2
	基礎化学	1 前	2	2
B群 生物化学	生物化学Ⅱ	2 後	2	2
	食品化学	2 前	2	2
	食品分析化学	3 後	2	2
C群 微生物学	基礎微生物学	1 後	2	2
	食品保蔵化学	3 後	2	2
	食品製造学	3 前	2	2
D群 公衆衛生学	公衆衛生学	3 前	2	2
	食品衛生学	4 前	2	2
E群 その他の関連科目	畜産食品科学	2 後	2	2
	動物生理学Ⅰ	2 前	2	2
	植物生理学	2 前	2	2
	動物解剖学Ⅰ	3 前	2	2
	動物育種学	3 前	2	2
	家畜栄養学	2 前	2	2
	畜産食品製造学	3 前	2	2
	動物衛生疾病学	3 後	2	2
	基礎遺伝学	1 前	2	2
必修単位数合計				40

(4) 測量士補資格取得について

技術者として基本測量又は公共測量に従事する場合は、国家資格である測量士又は測量士補の資格を有した者でなければならない。森林緑地環境科学科において測量士補の資格を取得したい者は、下表の「測量士補」に関する履修科目の中から 30 単位以上（ただし、測量学Ⅰ、測量学Ⅱ、測量学実習Ⅰ、測量学実習Ⅱの単位は必ず修得すること）を修得すること。また、卒業後、1 年以上の測量実務経験を得たものは、申請により測量士の資格を得ることができる。

表 測量士補の資格取得に関して修得すべき授業科目一覧表

区分	授業科目名	開講年次	単位数	備考
必修科目	測量学Ⅰ	2－前	2	
	測量学実習Ⅰ	2－前	1	
	測量学Ⅱ	2－後	2	
	測量学実習Ⅱ	2－後	1	
選択科目	基礎数学	1－前	2	左記の３９単位の中から２４単位以上を修得すること。
	基礎物理学	1－後	2	
	森林生態学	2－前	2	
	水文・気象学	2－前	2	
	森林計測学	2－前	2	
	環境リモートセンシング概論	2－前	2	
	構造力学	2－前	2	
	構造力学演習	2－前	1	
	森林計測学実習	2－後	1	
	砂防学	2－後	2	
	森林計画学	3－前	2	
	環境材料学	3－前	2	
	水理学	3－前	2	
	土質力学	3－前	2	
	流域防災保全学	3－前	2	
	水理学演習	3－前	1	
	土質力学演習	3－前	1	
	水資源管理学	3－後	2	
	農山村環境計画学	3－後	2	
	植生立地学	3－後	2	
	環境材料学実験	3－後	1	
	水理・土質実験	3－後	1	
	森林計画学実習	3－後	1	
修得単位数合計			３０単位以上	

(5) 自然再生士補資格取得について

- 1) 「自然再生士」とは、自然再生に必要な知識・技術・経験を有する、自然再生の推進者です。
自然再生士には、自然再生に係る事業全体を把握し、調査・計画・設計・施工・管理の、各々の事業段階において行われるべき業務や活動において、これに係わる人々をコーディネートするとともに、自ら担当する自然再生を実行できる能力が求められます。自然再生士の資格試験を受験するためには、自然再生に係る業務経験が3年以上必要となりますが、自然再生士補の資格を取得した者は自然再生に係る業務を1年間経験すると自然再生士の資格試験受験資格を得ることができます。
- 2) 植物生産環境科学科と森林緑地環境科学科では下記各学科の分野別対応表の科目の単位を次の①、②のいずれかのとおりに修得すると資格の申請ができます。
 - ①：講義科目分野から2科目4単位以上、実験実習科目分野から3科目6単位以上取得
 - ②：講義科目分野又は実験実習科目分野から6科目12単位以上取得
 申請手続きについては、卒業時に農学部教務・学生支援係まで問い合わせ願います。

●分野別科目対応表

植物生産環境科学科

	指定分野	科目	単位数
講義分野	①自然再生・自然環境概論	フィールド体験講座※	2
	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学		
	③自然再生・自然環境保全に係る施工計画・施工学		
	④自然再生・自然環境保全に係る維持管理計画・管理学		
	⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	基礎植物学 基礎生態学 植物生理学 植物病理学総論 植物病理学各論 樹木生態生理学	2 2 2 2 2 2
	⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等）分類・生態・生理学	基礎動物学 昆虫生態学 総合的害虫管理学	2 2 2
	⑦環境リスクマネジメント学		
	⑧環境経済学	基礎環境資源経済学	2
	⑨環境社会学		
	⑩地域環境学・地域生態論		
	⑪環境関連法規		
実験・実習（演習）分野	①自然環境調査と分析・評価に係る実習・演習		
	②動・植物同定調査に係る実習・演習 （森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む）	植物生産科学実験Ⅰ 植物生産科学実験Ⅱ	1 1
	③地域環境資源調査に係る実習・演習	農業・社会調査実習	1
	④自然環境保全活動に係る実習・演習		
	⑤生態学実習・演習		
	⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習		

森林緑地環境科学科

	指定分野	科目	単位数
講義分野	①自然再生・自然環境概論	森林緑地環境科学概論	2
	②自然再生・自然環境保全に係る計画（設計）学	森林計測学	2
		森林計画学	2
		農山村環境計画学	2
	③自然再生・自然環境保全に係わる施工計画・施工学	砂防学	2
		環境材料学	2
		生態緑化学	2
		流域防災保全学	2
	④自然再生・自然環境保全に係わる維持管理計画・管理学	植生立地学	2
		環境緑地学	2
	⑤植物（草本類、木本類、水生植物等）分類・生態・生理学	基礎植物学	2
		基礎生態学	2
		植物病理学総論	2
		植物病理学各論	2
		樹木学	2
		森林生態学	2
		遺伝生態学	2
		樹木生態生理学	2
	⑥動物（哺乳類、は虫類、両生類、昆虫、鳥類、魚類等）分類・生態・生理学	基礎動物学	2
		昆虫生態学	2
		総合的害虫管理学	2
		森林保護学	2
	⑦環境リスクマネジメント学	環境計測学	2
	⑧環境経済学	森林経済学	2
		基礎環境資源経済学	2
	⑨環境社会学	森林政策学	2
		森林社会学	2
	⑩地域環境学・地域生態論	環境リモートセンシング概論	2
		ランドスケープ論	2
	⑪環境関連法規		2
実験・実習（演習）分野	①自然環境調査と分析、評価に係る実習・演習	森林緑地フィールド実習Ⅰ	1
		森林計測学実習	1
	②動・植物同定調査に係る実習・演習 （森林動物学実習、森林昆虫学実習を含む）	樹木学実習	1
		森林緑地フィールド実習Ⅱ	1
	③地域環境資源調査に係る実習・演習		
	④自然環境保全活動に係る実習・演習	森林計画学実習	1
	⑤生態学実習・演習	植生調査実習	1
	⑥プレゼンテーション・コーディネート能力育成に係る実習		2

(6) 樹木医補資格取得について

- 1) 樹木医とは、樹木の診断及び治療、後継樹の保護育成並びに樹木保護に関する知識の普及及び指導を行う専門家です。樹木医になるには樹木医研修を受講して、樹木医資格審査に合格しなければなりません。この樹木医の審査を受けるには、樹木の保護、樹勢回復・治療に関する研究又は実務の従事期間が7年以上必要となりますが、樹木医補の資格を取得した者は樹木の保護等の業務を1年間経験すると樹木医研修受講者応募資格を得ることができます。
- 2) 樹木医補資格を取得するためには、下表の科目を次のように取得すると申請ができます。
講義科目は、講義分野9分野から6分野以上を選び、14単位の履修が必要です。
実験・実習科目は、4分野4科目以上の履修が必要です。
申請手続きについては、卒業時に農学部教務・学生支援係まで問い合わせ願います。

別表

分野別の科目対応表

		宮崎大学	
		講義科目	実験・実習科目
分 野	樹木の分類	樹木学②	樹木学実習①
	樹木の生態・生理	森林生態学② 樹木生態生理学② 造林学②	造林学実験実習①
	立地・土壌	植生立地学② 土壌肥料学②	森林緑地フィールド実習Ⅱ①
	植物病理	植物病理学総論② 植物病理学各論②	森林バイオマス科学実験①
	昆虫・動物	昆虫生態学②	
	樹木医学一般		
	農薬科学	総合的害虫管理学②	
	造園学一般	環境緑地学② ランドスケープ論② 生態緑化学②	森林計測学実習①
	樹木医補総合		森林緑地フィールド実習Ⅰ①

(7) 環境再生医初級資格取得について

1) 「環境再生医」は、環境の復元・再生の際に、あたかも町医者のように現状を診察(調査・診断)し、処方(対策の計画)を立て、治療(施術・施工)を行い、さらにはケア(維持管理)を継続的に行う環境の“専門医”です。通常、環境再生医初級の資格を取得するためには、2年以上の実務経験と資格認定講習後の試験に合格する必要がありますが、森林緑地環境科学科は環境再生医初級資格検定委嘱認定校であるため、一定数以上の単位を取得し検定料を納入することによって卒業前に資格を取得可能です。

2) 環境再生医初級資格を取得するためには、

a) 下表の受講科目の単位を総て取得しガイダンスを受けたのち、認定されます。

b) 下表の受講科目の単位を総て取得したのち、学内検定を受検し合格すると認定されます。

申請手続きについては、卒業時に農学部教務・学生支援係まで問い合わせ願います。

別表

初級認定講習項目	受講科目	単位数
1) 地球環境問題・自然環境復元概論	基礎生態学	2
	森林緑地環境科学概論	2
2) 自然環境の再生	森林生態学	2
	生態緑化学	2
	環境緑地学	2
3) 物質資源	基礎環境資源経済学	2
	植生立地学	2
4) 環境教育・市民活動	森林社会学	2
	森林経済学	2
5) 環境行政・関係法令	森林政策学	2
合計		20

(8) 森林情報士 2 級資格取得について

1) 森林情報士制度は、空中写真やリモートセンシングからの情報の解析技術、GIS 技術等を用いて森林計画、治山、林道等、さらには地球温暖化問題解析などの事業分野に的確に対応できる専門技術者の養成を目的とした資格認定制度です。資格には、森林航測、森林リモートセンシング、森林 GIS の 3 つの部門があります。

2) 本学では、下表の科目を次のように取得すると、森林リモートセンシング部門および森林 GIS 部門の資格が申請できます。

A 群は、2 分野以上から講義科目 8 単位以上、実習科目 4 単位以上の履修が必要です。

B 群は、各部門について講義科目と実習科目の合計 1.5 単位以上の履修が必要です。

ただし、上記単位を履修した上で、次のいずれかの要件を満たす必要があります。

①卒業後 5 年以内に当該団体の主催する事前学習および 2 日間の森林情報士 2 級実習セミナーに受講し合格すること。

②卒業後 5 年以内に当該森林情報士部門関係に直接に関わる実務を 1 年以上経験し、本会主催の事前学習、レポート試験審査に合格すること。

③資格を得ようとする部門に係わる卒業論文で必要な単位(1.5 単位相当)を取得すること。

申請手続きについては、卒業時に農学部教務・学生支援係まで問い合わせ願います。

別表

A 群（森林学一般科目）の分野別の科目対応表

分野	宮崎大学	
	講義科目	実習（演習）科目
管理・経営	森林計画学② 森林経済学②	森林計測学実習①
育成・利用	造林学②	森林緑地フィールド実習Ⅰ① 造林学実験実習①
生態・保護	樹木学② 森林生態学②	樹木学実習① 植生調査実習①
水土保持	水文・気象学② 砂防学②	森林緑地フィールド実習Ⅱ①

B 群（森林情報士部門別関係群科目）の分野別の科目対応表

部門	宮崎大学	
	講義科目	実習（演習）科目
森林リモートセンシング	森林計測学 (0.1 単位相当) 環境リモートセンシング概論 (1.1 単位相当) 測量学Ⅱ (0.1 単位相当)	環境リモートセンシング概論 (0.3 単位相当)
森林 GIS	環境リモートセンシング概論 (0.5 単位相当) 水資源管理学 (0.4 単位相当) 植生立地学 (0.2 単位相当) 測量学Ⅱ (0.2 単位相当)	森林計画学実習 (0.7 単位相当)

(9) 2級ビオトープ計画管理士および2級ビオトープ施工管理士の筆記試験一部免除について

- 1) ビオトープ管理士とは、自然や歴史、文化など、地域で受け継がれてきた貴重な財産を活かし、人と自然が共存する持続可能なまちづくり・くにづくりを実践する技術者の資格であり、専門性の異なる「計画部門」（広域的な地域計画（都市計画、農村計画など）のプランナー）と、「施工部門」（設計・施工にあたる事業現場担当の技術者）があります。さらにそれらは、難易度によって1級と2級の2階級に区分されています。なお、1級の受験には、学歴や資格の保有状況に応じた一定の実務経験年数を満たしている必要があります。
- 2) 2級ビオトープ管理士の資格を取得するためには、別表に示す共通科目（3科目）と、それぞれの専門科目（計画部門・施工部門）の試験を受験しなければなりません。これらの試験科目に対応する本学部の授業（12科目）のすべての単位を取得し、本学在学中または卒業後5年以内の資格試験受験時に申請すると、資格試験の択一問題の半分会免除されます。申請手続きについては、卒業時に農学部教務・学生支援係まで問い合わせ願います。

別表

ビオトープ管理士資格試験 試験科目	左に該当する授業	
	授業の名称	単位数
2級ビオトープ管理士 共通科目 生態学	基礎生態学 (選択科目)	2単位
	森林生態学 (必修科目)	2単位
	植生立地学 (選択科目)	2単位
2級ビオトープ管理士 共通科目 ビオトープ論	植生立地学 (選択科目)	2単位
	生態緑化学 (必修科目)	2単位
	砂防学 (必修科目)	2単位
	ランドスケープ論 (選択科目)	2単位
2級ビオトープ管理士 共通科目 環境関連法	森林政策学 (選択科目)	2単位
	生態緑化学 (必修科目)	2単位
	砂防学 (必修科目)	2単位
	農山村環境計画学 (必修科目)	2単位
	森林計画学 (必修科目)	2単位
	環境計測学 (必修科目)	2単位
	環境緑地学 (選択科目)	2単位
2級ビオトープ管理士 専門科目 計画部門	農山村環境計画学 (必修科目)	2単位
	森林計画学 (必修科目)	2単位
	環境緑地学 (選択科目)	2単位
	ランドスケープ論 (選択科目)	2単位
2級ビオトープ管理士 専門科目 施工部門	生態緑化学 (必修科目)	2単位
	環境緑地学 (選択科目)	2単位
	造林学 (必修科目)	2単位

※選択・必修の別は森林緑地環境学科のカリキュラム上での分類を示す。

(10) 実験動物一級技術者の在学受験資格について

- 1) 薬剤、栄養物質、環境汚染物質などの化学物質、それらの人体への影響を評価するのに動物実験は欠かせません。動物実験を適正に実施するのに必要な高度技術を備えた専門家、それが実験動物一級技術者です。畜産草地科学科では、下表に示した所定の科目を履修すれば、4年次に一級技術者の試験を受けることができます。学科および実地の両試験に合格した者は、認定登録申請により実験動物一級技術者の資格を得ることができます。

2) 修得すべき授業科目について

授業科目名	単位数
講義	
実験動物学	2
動物解剖学Ⅰ	2
動物解剖学Ⅱ	2
動物生理学Ⅰ	2
動物生理学Ⅱ	2
動物育種学	2
動物生殖生理学	2
動物生殖制御学	2
薬理学Ⅰ	2
毒性学	2
家畜栄養学	2
動物環境管理学	2
動物衛生学	2
動物衛生疾病学	2
基礎動物学	2
実験動物学各論	1
実習	
動物解剖学実習	1
家畜栄養学実習	1
動物生殖生理学実習	1
実験動物学実習	1

(11) 飼料製造管理者資格の有資格者取得について

- 1) 飼料製造管理者制度は、「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」に基づき、特別の注意を必要とする飼料等（落花生油かす・尿素・ジウレイドイソブタンを原料とする飼料、抗菌性物質製剤を含む飼料、飼料添加物）を製造する際に、その飼料等の製造を実地に管理するため、その事業場ごとに法令に定められた資格を有する飼料製造管理者を設置する制度です。
- 2) 以下の対応表の授業科目（12科目）のうち11科目を履修し、畜産草地科学科を卒業した者は、飼料製造管理者の有資格者となります。上記1)の特別の注意を必要とする飼料等を製造する事業場（飼料会社や会社組織の牧場等）に就職し、飼料製造管理者が設置される場合に、卒業証明書又は成績証明書の写し、履歴書および製造業者との雇用証明書を、飼料製造管理者届けとともに農林水産大臣宛てに提出する必要があります。ただし、資格を証明するための免許（ライセンス）や個人に対しての証明書の発行等はありません。

対応表

指定科目区分	授業科目	必修/選択	単位数
家畜育種学	動物育種学	必修	2
家畜品種論	動物育種資源学	選択	2
家畜繁殖学	動物生殖生理学	必修	2
家畜栄養学	家畜栄養学	必修	2
飼料学	飼料学	選択	2
家畜管理学	動物環境管理学	必修	2
家畜解剖学又は組織学	動物解剖学Ⅰ	選択	2
家畜生理学又は生化学	動物生理学Ⅰ	選択	2
畜産物利用学	畜産食品科学	必修	2
草地利用学	草地植生管理学	選択	2
家畜衛生学	動物衛生学	選択	2
畜産学汎論	畜産草地科学概論	必修	2

※必修・選択の別は畜産草地科学科のカリキュラム上での分類を示す。

(12)International GAP(国際的適正農業規範)対応の食料管理専門技術者養成教育について

- 1) 本教育プログラムは、国際標準の適正農業規範（GAP）にもとづいて、農業生産現場から農産物の流通・加工・小売までの工程における農場管理と販売管理、食の安全、環境保全型農業、労働安全について理解することにより、専門性の高い食料管理専門技術者の養成を目的としている。

本教育プログラムに関する科目の単位を修得することで、卒業時に本教育プログラムの修了証明書を受けることができる。農業および食品関連企業等に就職する者にとっては、本教育プログラムを修了することが有益である。

- 2) 食料管理専門技術者養成教育の受講および修了基準について

- (1) ①表にある GAP コア科目については、各科目区分の最低修得単位数以上を取得すること。
- (2) ②表にある GAP 関連科目は、各科目区分にわたって幅広く履修することが望ましい。
- (3) 講義形式等の都合により、受講者数を制限することがある。
- (4) 受講するにあたり、交通費等の一部自己負担が発生する場合がある。

① GAP コア科目（必修科目）

科目区分	最低修得単位数	科目名
GAP 概論	2	植物生産環境科学概論(2)
GAP 模擬実習	2	植物生産環境科学基礎実験・実習Ⅰ(1)および植物生産環境科学基礎実験・実習Ⅱ(1)
インターンシップ および GAP 認証 農場等での実習	2	農場実習Ⅰ(1)、農場実習Ⅱ(1)、短期学外体験実習(1)、学外体験実習※(2)、企画実習(1)、グローバルアグリ体験講座(2)、フィールド実践実習(2)
GAP 指導員講座	1	GAP 指導員講座(1)
農業技術者倫理	1	農業技術者倫理(1)
専門英語	4	専門英語Ⅰ※(2)、専門英語Ⅱ※(2)
卒業論文	6	卒業論文※(6)

※印の科目については植物生産環境科学科のものを取得すること。

② GAP 関連科目（選択科目）

科目区分	科目名
食の安全と 品質向上 に関する科目	栽培学(2)、植物生理学(2)、植物病理学総論(2)、作物学総論(2)、野菜園芸学(2)、園芸利用学(2)、果樹園芸生理学(2)、作物学各論(2)、青果代謝生理学(2)、施設園芸学(2)、果樹園芸学各論(2)、生産流通施設学(2)、作物生産技術学(2)、生物生産システム工学(2)、観賞園芸学(2)
生産環境保全 に関する科目	農地環境工学(2)、果樹園芸学総論(2)、栽培植物起源論(2)、昆虫生態学(2)、植物生産科学実験Ⅰ(1)、植物生産科学実験Ⅱ(1)、植物病理学各論(2)、農業システム学(2)、総合的害虫管理学(2)、土壌肥料学(2)、土の物理学(2)、バイオロジカル・コントロール(2)、農地環境保全学(2)、
労働安全 に関する科目	農業機械化論(2)、農業動力機械学(2)、人間工学(2)、農業環境工学実験Ⅰ(1)、雑草防除学(2)、農業水力機械学(2)、生物応用力学Ⅰ(2)、農業環境工学実験Ⅱ(1)、生物生産機械学(2)、生物応用力学Ⅱ(2)、コンピュータ図学及び製図(2)、生物計測工学(2)、
農場運営と 販売管理 に関する科目	生物情報処理学(2)、農業経済学(2)、応用数学Ⅰ(2)、社会統計学(2)、応用数学Ⅱ(2)、農業・社会調査実習(1)、農業経営学(2)、農業政策論(2)、国際農業論(2)、農産物流通論(2)

(13) 畜産基地を基盤とした大学間連携による実践型適正家畜生産技術者養成教育について

1. 適正家畜生産技術者養成教育および本教育の修了認定について

本教育プログラムは、宮崎大学、東海大学および南九州大学の3大学が連携して、家畜生産を適正に実践するための知識や技能を統合的に修得した適正家畜生産技術者の養成教育を行うものである。この教育により、日本型畜産の健全で適正な発展に寄与する人材を養成することを目的としている。

適正家畜生産技術者とは、1) 日本の畜産が直面する課題に対して、飼料および家畜の生産現場における管理から畜産物の加工、流通そして消費までの幅広い視野で総合的な解決方法を構想できる能力、2) 適正な家畜生産に関する国際的規範を理解し、それに則したリスク管理、飼料の生産および設計、家畜の能力評価、家畜管理や疾病予防等の衛生管理を総合的に判断し実践できる能力、3) 国際的に視野を広げつつ、地域の特性を理解し、地域社会と環境に調和した特色のある畜産を実践できる能力、を有する専門性の高い技術者である。

本教育に関する科目の単位を修得することで、本教育の修了証明書を受けることができる。畜産および食品関連企業等に就職する者にとっては、本教育を修了することが有益である。

2. 適正家畜生産技術者養成教育の受講および修了基準について

- 1) ①表にある3大学連携科目についてはすべて履修すること。
- 2) ②表にある基盤科目については履修することが望ましい。
- 3) 実習設備等の都合により、受講者数を制限することがある。
- 4) 受講するに当たり、食費等の実費については一部自己負担がある。
- 5) 各学科において開講する「大学入門セミナー」の中で、本取組の概要説明を受講すること。
- 6) ①表にある3大学連携科目については、卒業に必要な単位に含めることはできない。

① 3大学連携科目

授業科目	単位数	備考
適正家畜生産規範学 ^(注1)	2	必修
適正家畜生産規範学実習 ^(注2)	1	必修
実践適正家畜生産規範学 ^(注1)	1	必修

(注1) テレビ会議システムを利用した3大学同時開講

(注2) 各大学の实習施設を利用した3大学合同実習

②宮崎大学において履修することが望ましい基盤科目

分野	授業科目	開講学科	単位数
畜産草地に関連する導入科目	畜産草地科学序説	畜	2
	畜産草地科学基礎化学	畜	2
	畜産草地科学概論	畜	2
草地学に関連する科目	草地システム生態学	畜	2
	実践畜産草地生産学	畜	2
	草地畜産論	畜	2
	草地・草原環境保全・修復学	畜	2
	環境草地学	畜	2
動物育種・繁殖に関連する科目	動物育種学	畜	2
	動物生殖生理学	畜	2
	臨床繁殖学Ⅰ	獣	2
	臨床繁殖学Ⅱ	獣	2
動物生理・解剖に関連する科目	動物生理学Ⅰ	獣	2
	動物生理学Ⅱ	獣	2
	動物生理学Ⅲ	獣	2
	解剖学Ⅰ（動物解剖学Ⅰ*）	獣	2
	解剖学Ⅱ（動物解剖学Ⅱ*）	獣	2
家畜飼養管理・飼料に関連する科目	草類利用学	畜	2
	飼料作物学	畜	2
	家畜栄養学	畜	2
	動物環境管理学	畜	2
	動物福祉学	畜	2
家畜疾病・衛生管理に関連する科目	動物衛生学	獣	2
	動物衛生疾病学	獣	2
	獣医公衆衛生学Ⅰ	獣	2
	獣医公衆衛生学Ⅱ	獣	2
	毒性学	獣	2
家畜生産に関連する実験実習	畜産草地科学基礎実習	畜	1
	畜産草地科学基礎実験	畜	1
	草地生産・生態学実験	畜	2
	解剖学実習（動物解剖学実習*）	獣	2（1*）
	生理学実験実習	獣	1
	獣医公衆衛生学実習	獣	1
	動物衛生学実習	獣	1
	動物環境管理学実験	畜	1
	動物生殖生理学実験	畜	1
	臨床繁殖学実習	獣	1
	毒性学実習	獣	1
	牧場実習Ⅰ	畜	1
	牧場実習Ⅱ	畜	1
	学外体験実習	畜	2
	獣医インターンシップ	獣	1

*畜産草地科学科での開講時科目名および単位数

授業時間割 (控)

第1年次【前学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

第1年次【後学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

※備考 受講科目登録をし、同時に本票にも記入して受講科目を明瞭にしておくこと。

第2年次【前学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

第2年次【後学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

※備考 受講科目登録をし、同時に本票にも記入して受講科目を明瞭にしておくこと。

第3年次【前学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

第3年次【後学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

※備考 受講科目登録をし、同時に本票にも記入して受講科目を明瞭にしておくこと。

第4年次【前学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

第4年次【後学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

※備考 受講科目登録をし、同時に本票にも記入して受講科目を明瞭にしておくこと。

第5年次（獣医学科）【前学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

第5年次（獣医学科）【後学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

※備考 受講科目登録をし、同時に本票にも記入して受講科目を明瞭にしておくこと。

第6年次（獣医学科）【前学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

第6年次（獣医学科）【後学期】

曜日 \ 時限	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10
月					
火					
水					
木					
金					

※備考 受講科目登録をし、同時に本票にも記入して受講科目を明瞭にしておくこと。

